

高所作業車

検査・整備基準値表



社団法人

建設荷役車両安全技術協会

ま え が き

高所作業車を有効に稼働させ、常に安全な状態に維持する為には、適正な定期自主検査と整備作業がなされなければなりません。

その為には、チェック結果の良否の判断、及び整備作業の基となる基準が常に利用できる状態にあることが大切で、各機械の検査・整備基準が業界に広く開示される必要があるとの観点から、平成12年「検査・整備基準値表」を作成して検査・整備業界に提供してまいりましたが、5年を経過しましたので今般改訂第2版を発行することと致しました。

「検査・整備基準値表」の編集にあたっては、当協会の公益性に鑑み、国内で販売されている対象機種の新製品を網羅することを基本方針として努力してまいりましたが、幸いにも大方のメーカーの御賛同と御協力を得て、ここにその代表機種である「高所作業車 検査・整備基準値表」を改訂出版する運びとなりました。

当協会の趣旨に御賛同くださり、編集委員の派遣、原稿の提供等に快く応じて下さった各メーカー及び関連各位と当協会検査整備技術委員会各位に対し、心より御礼申し上げます。

なお、今後とも定期的に改訂版を発刊する計画ではありますが、今回の版の基準値表リストからもれたモデル、及び収録以後の新規モデルについては、次版にて収録する予定としております。

平成17年11月

社団法人 建設荷役車両安全技術協会

会 長 高 田 浩 之

高所作業車 検査・整備基準値表の作成に御尽力くださった方々は次のとおりです。

委員長	杉本 周司	株式会社アイチコーポレーション
委員	小田 巧	株式会社タダノ
〃	鈴木 裕也	日立建機株式会社
〃	湯本 誠一	長野工業株式会社
〃	古田 正直	株式会社エスマック
原稿提供	徳留 慎哉	株式会社前田製作所
事務局	下田 昇	社団法人 建設荷役車両安全技術協会
〃	木野 茂保	〃

検査・整備基準値表の利用上の留意事項

1. 「基準値表」の表示

- (1) 「基準値表」の表示はメーカーごとに一括りにしてあります。
- (2) 同一メーカー内の表示は概ね ミニ、小型、中型の 3 サイズに分類してあり、各サイズの巻末には検査の際の機械姿勢を図形表示してあります。
- (3) 各ページは、機械のサイズごとに 2 ページ分の見開きで表示してあります。

左ページの左端に項目を表記し、同サイズの機械のモデル数が多くて収まりきれない場合には 2 ページの見開き単位で追加してあります。機械サイズごとに見開きに余白が出来ても、新モデルの追加記入を考慮して余白のままに残してあります。

2. 収録モデルの範囲

(1) 時期的な収録範囲

この「検査・整備基準値表」は、平成 17 年 6 月末現在に日本国内において製造又は販売されているモデルに限定して、収録してあります。

この時点で製造又は販売を打ち切られているモデル、又はこの時点以降に新規に製造又は販売されたモデルは含んでおりません。

収録からもれてしまったモデル又は収録以降の新規モデルについては、今後定期的に行う改訂版の発行の際に収録し掲載する予定です。

(2) モデルサイズの収録範囲

この「検査・整備基準値表」には、日本国内市場で主要部分を占める、高所作業車をトラック式、ホイール式、クローラ式に分けて収録してあります。

3. 「検査・整備基準値表」の項目の選定

(1) 「メーカーの定める基準値」と表記してある項目

定期自主検査指針（平成 3 年 7 月付け公示 13 号）において「メーカーの定める基準値」と表記してある項目を収録してその基準値を数値で表示することを原則としていますが、追加収録する項目の選定及び基準値の表記方法等はメーカーの自主判断に委ねてあります。

凡 例

単位は、国際単位系（SI 単位系）に基づく新計量法（平成 4 年 5 月 20 日 法律第 51 号）による。

主要 S I 単位項目別換算表

項目	A. 力		B. 力のモーメント		C. 圧力		D. 応力			E. 仕事率	
	従来単位	S I 単位	従来単位	S I 単位	従来単位	S I 単位	従来単位	S I 単位		従来単位	S I 単位
単位	kgf	N	kgf・m	N・m	kgf/cm ²	Pa	kgf/mm ²	N/m ²	N/mm ²	PS	kW
換算値	1	9.80665	1	9.80665	1	98066.5	1	9806650	9.80665	1	0.7355
	0.101972	1	0.101972	1	0.000102	1	0.00000101972	1	0.000001	1.3596	1
							0.101972	1000000	1		
記入項目例	牽引力 引張張力 1kgf=9.80665N		締め付けトルク エンジントルク		リリーフ圧力 空気圧 175kgf/cm ² =17.2MPa					エンジン出力 1PS=0.7355kW	

単位の接続語（主要単位）

S I 単位の接続語は、S I 単位の倍数を示す。

（たとえば MP a の M は、1 MP a = 1×10^6 P a = 1,000,000 P a となる。）

名称	記号	単位に乘じる倍数	単位数	名称	記号	単位に乘じる倍	単位数
ギガ	G	10^9	1,000,000,000	デシ	d	10^{-1}	0.1
メガ	M	10^6	1,000,000	センチ	c	10^{-2}	0.01
キロ	k	10^3	1,000	ミリ	m	10^{-3}	0.001
ヘクト	h	10^2	100	マイクロ	μ	10^{-6}	0.000001
デカ	da	10	10	ナノ	n	10^{-9}	0.000000001

高所作業車 検査・整備基準値表

目 次

(株)アイチコーポレーション	クローラ内燃式 SR123～	2
	ホイール内燃式 SP25A～	4
	クローラ蓄電式 RM040～	6
	ホイール蓄電式 SV03A～	8
	トラック式 SH145～	10
	トラック式 SK126～	14
(株)エスマック	クローラ蓄電式 PC40-Ⅲ～	22
	ホイール蓄電式 PH40-Ⅲ～	24
	トラック式 TS80～	26
(株)タダノ	ホイール内燃式 AW-215TG-2～	28
	クローラ蓄電式 AC-40-1～	32
	トラック式 AT-100TG-3～	34
	トラック式 AT-72TT-1～	40
	トラック式 AT-100S-2～	46
	トラック式 AT-157CG-1～	52
	トラック式 BT-110-1～	58
長野工業(株)	クローラ内燃式 NUL070R-2～	68
日立建機(株)	クローラ内燃式 HF070R-2～	70
(株)前田製作所	クローラ内燃式 HF070R-2～	74

株式会社 アイチコーポレーション

適用範囲			モデル名		SR123	SR182			
			適用号機		STD	STD			
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法		単位	検査基準値				
エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度	ローアイドル	min ⁻¹	1300	1200			
			ハイアイドル	min ⁻¹	2300	2300			
		弁すき間	吸気弁	mm	—	—			
			排気弁	mm	—	—			
		圧縮圧力		MPa	—	—			
				(kgf/cm ²)	—	—			
	冷却装置	回転速度		min ⁻¹	—	—			
		ファン駆動ベルトの張り		mm	—	—			
			※ベルト押し付け力	N	—	—			
			(kgf)	—	—				
走行装置	履帯クローラベルト	ゴムベルト張り(たわみ量)※5		mm	—	—			
		鉄シュー	張り(たわみ量)※5	mm	10～15	220～260			
			履帯を浮かし履帯とトラックフレーム下面(トラックローラ)との距離	mm	履帯を浮かし履帯リンク上面とトラックローラ下面との距離	履帯を浮かし履帯上面とトラックフレーム下面との距離			
	走行ブレーキ	制動距離		m	—	—			
	駐車ブレーキ	最低停止保持勾配		°	—	—			
作業装置	ブーム	スライディングパッド部がた	上下	mm	1	1			
			左右	mm	1	1			
		スライディングパッド	摩耗量	mm	—	—			
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧	首振り側	MPa	13.7	6.9			
				(kg/cm ²)	(140)	(70)			
			走行側	MPa	20.6	19.6			
				(kg/cm ²)	(210)	(210)			
		ポンプ回転数	低速	min ⁻¹	1300	1200			
			高速	min ⁻¹	2300	2300			
		※作動油		—	T15	T15			
		油温		℃	40±10	40±10			
	油圧シリンダ	自然伸縮量	リフト	mm/10min	2	2			
安全装置	車体傾斜角警報装置	作動角度	前後	°	3	3			
			左右	°	3	3			
	作業範囲規制装置	リミットスイッチ作動高さ	高速走行規制	m	ブーム水平以上 ブーム全縮以外	ブーム水平以上 ブーム全縮以外			
			走行規制	m	—	—			
			上昇規制検知	m	—	—			
	過積載規制装置	圧力スイッチ作動重量	上昇可	kg	—	—			
			上昇不可	kg	—	—			
総合テスト	作動速度	起伏(リフト)	上	s	35±5	50±5			
			下	s	35±5	50±5			
		伸縮 ※2-2	伸	s	25±5	35±5			
			縮	s	25±5	30±5			
		旋回 ※2-3	右	s	60±5	70±5			
			左	s	60±5	70±5			
		バケット首振速度 ※2-4	右	s	20±4	20±4			
			左	s	20±4	20±4			
		走行 ※3	高	km / h	1.5	1.0			
			低	km / h	1.5	1.0			

株式会社 アイチコーポレーション

適用範囲		モデル名			SP25A				
		適用号機			STD				
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法		単位	検査基準値				
エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度	ローアイドル	min ⁻¹	1100				
			ハイアイドル	min ⁻¹	2100				
		弁すき間	吸気弁	mm	—				
			排気弁	mm	—				
		圧縮圧力		MPa	—				
				(kgf/cm ²)	—				
	冷却装置	ファン駆動ベルトの張り		mm	—				
		※ベルト押し付け力		N	—				
				(kgf)	—				
走行装置	走行ブレーキ	制動距離		m	—				
	駐車ブレーキ	ドラムとライニングのすき間		mm	—				
		最低停止可能勾配		°	—				
作業装置	ブーム	スライディングパッド部がた	上下	mm	2以下				
			左右	mm	2以下				
		スライディングパッド	摩耗量	mm	—				
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧			MPa	17.2			
					(kg/cm ²)	(175)			
		ポンプ回転数	低速	min ⁻¹	1100				
			高速	min ⁻¹	2100				
		※作動油 油温			—	T15			
				°C	40±10				
	油圧シリンダ	自然降下量 ※1	起伏（リフト）	mm/10min	2				
			伸縮	mm/10min	2				
			ジャッキ	mm/10min	—				
			平衡装置	mm/10min	2				
安全装置	車体傾斜角 警報装置	作動角度	前後	°	3.5±0.5				
			左右	°	3.5±0.5				
	作業範囲 規制装置	リミットスイッチ 作動高さ 測定方法 ※7	高速走行規制	m	ブーム水平以上 ブーム全縮以外				
			L-Max スtabilizer 全張出	m/°	14.9～15.3				
	過積載 規制装置	圧力スイッチ 作動重量	上昇可	kg	—				
			上昇不可	kg	—				
	インタロック	ジャッキインタロック		—	—				
総合テスト	作動速度	起伏(リフト)	上	s	50±7				
			下	s	50±10				
		伸縮 ※2－2	伸	s	50±7				
			縮	s	40±6				
		旋回 ※2－3	右	s	60±12				
			左	s	60±12				
		バケット首振速度 ※2－4	右	s	15±3				
			左	s	15±3				
		走行 ※3	高	km / h	4±1.2				
			低	km / h	2±0.6				

株式会社 アイチコーポレーション

[illegible]

株式会社 アイチコーポレーション

適用範囲			モデル名		SV03A	SV041	SV06A		
			適用号機		STD	STD	STD		
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法		単位	検査基準値				
電動機	駆動用ベルト	駆動用チェーンのたわみ		mm	—	—	—		
	バッテリー	電圧		V	24	24	24		
	ヒューズ	走行主回路用		A	10	10	5		
		油圧主回路用		A	10	10	5		
	ブレーカ	主回路用ブレーカ		A	5	5	10		
走行装置	ホイール	ニューマチックタイヤ	空気圧	MPa	—	—	—		
				(kg/cm ²)	—	—	—		
		リフトタイヤ	摩耗量		—	—	—		
	走行ブレーキ	制動距離		m	—	—	—		
	駐車ブレーキ	ドラムとライニングのすき間		mm	—	—	—		
		最低停止可能勾配		°	—	—	—		
作業装置	ブーム	スライディングパッド部がた	上下	mm	1以下	0.8以下	—		
			左右	mm	1以下	0.8以下	—		
		スライディングパッド	摩耗量	mm	2以下	2以下	—		
油圧装置	油圧ポンプ	昇降	吐出圧	MPa	7.3	11.3	13.7		
				(kgf/cm ²)	(74)	(115)	(140)		
			※作動油	—	T22	T22	T22		
				油温	℃	40±10	40±10	40±10	
		操舵	吐出圧	MPa	—	11.3	4.9		
				(kgf/cm ²)	—	(115)	(50)		
			※作動油	—	—	T22	—		
				油温	℃	—	40±10	40±10	
		メイン	吐出圧	MPa	—		17.2		
				(kgf/cm ²)	—		(175)		
			※作動油	—	—		—		
				油温	℃	—		40±10	
油圧シリンダ	自然降下量	リフトシリンダ	mm/10min	2	2	2			
安全装置	車体傾斜角警報装置	作動角度		°	2	2	2		
	過積載防止装置	作動質量		N	1961	1961	1961		
				(kgf)	200	200	200		
総合テスト	作動速度	昇降	上昇	s	16±4	20±6	30±6		
			下降	s	22±4	18±5	42±8		
		走行 ※3	高速	km / h	1.6 ^{+0.4} _{-0.4}	1.6 ^{+0.4} _{-0.4}	2.0±0.3		
			低速	km / h	—	—	0.8±0.1		

株式会社 アイチコーポレーション

適用範囲		モデル名			SH145	SH145	SH145	SH145	
		適用号機又はスペック番号			STD	低騒音 ユニット付	昇降バケット 又は 動力化ウインチ	昇降バケット +動力化ウインチ	
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法		単位	検査基準値				
作業装置	ブーム	スライディングバケット部分がた	上下	mm	2以下	2以下	2以下	2以下	
			左右	mm	1以下	1以下	1以下	1以下	
		スライディングバケット	摩耗量	mm	2以下	2以下	2以下	2以下	
	バケット	積載			kg	200	200	200	200
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧		MP a	17.2	17.2	17.2	17.2	
				(kg/cm ²)	(175)	(175)	(175)	(175)	
		※ポンプ回転数		min ⁻¹	850±50	850±50	850±50	850±50	
		作動油		—	T22	T22	T22	T22	
		油温		℃	40±10	40±10	40±10	40±10	
	油圧シリンダ	自然降下量 ※1	起伏	mm	2/10min 以下	2/10min 以下	2/10min 以下	2/10min 以下	
			伸縮	mm	2/10min 以下	2/10min 以下	2/10min 以下	2/10min 以下	
			ジャッキ	mm	1/10min 以下	1/10min 以下	1/10min 以下	1/10min 以下	
			ウインチ起伏	mm	2/10min 以下	2/10min 以下	2/10min 以下	2/10min 以下	
安全装置	アースル線	抵抗値		Ω	—	—	—	—	
	作業範囲 規制装置	測定方法 ※7	L-Max ジャッキ張出 Max 時	m / °	9.99～10.39 (100kg) 積載	10.59～10.99 (100kg) 積載	9.75～10.15 (100kg) 積載	9.48～9.87 (100kg) 積載	
			規制装置	—	—	—	—	—	
		モータリミッタ		—	○	○	○	○	
	インターロック	ジャッキインターロック		—	○	○	○	○	
		ブームインターロック		—	○	○	○	○	
		駐車ブレーキインターロック		—	—	—	—	—	
作業機用エンジン	エンジン本体	エンジン 回転速度	低	min ⁻¹	—	—	—	—	
			中	min ⁻¹	—	—	—	—	
			高	min ⁻¹	—	—	—	—	
		弁すき間	吸気弁	mm	—	—	—	—	
			排気弁	mm	—	—	—	—	
		圧縮圧力		MP a	—	—	—	—	
				(kg/cm ²)	—	—	—	—	
		※回転速度		min ⁻¹	—	—	—	—	
	冷却装置	ファン駆動ベルトの張り		mm	—	—	—	—	
		※ベルト押し付け力	N	—	—	—	—		
			(kgf)	—	—	—	—		

注) 安全装置の作業範囲規制装置測定方法は張り幅や、ウエイトの重量によって異なります。
測定方法はL-Max の他にL-Min もあります。詳細は、サービスマニュアルを参照して下さい。

株式会社 アイチコーポレーション

適用範囲		モデル名		SH145	SH145	SH145	SH145		
		適用号機又はスペック番号		STD	低騒音 ユニット付	昇降バケット 又は 動力化ウインチ	昇降バケット +動力化ウインチ		
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法	単位	検査基準値					
総合テスト	作動速度 上部	起伏 ※2-1	上	s	35±5	35±5	35±5	35±5	
			下	s	30±5	30±5	30±5	30±5	
		旋回 ※2-2	右	s	60±10	60±10	60±10	60±10	
			左	s	60±10	60±10	60±10	60±10	
		伸縮 ※2-3	伸	s	33±5	33±5	33±5	33±5	
			縮	s	25±5	25±5	25±5	25±5	
		バケット 首振速度 ※2-4	右	s	10±5	10±5	10±5	10±5	
			左	s	10±5	10±5	10±5	10±5	
		バケット 昇降速度	上	s	—	—	8±3	8±3	
			下	s	—	—	10±3	10±3	
		ウインチ 起伏速度	起	s	—	—	6±3	6±3	
			伏	s	—	—	6±3	6±3	
		ウインチ 旋回速度	右	s	—	—	7±2	7±2	
			左	s	—	—	7±2	7±2	
	作動速度 下部	起伏	上	s	35±5	35±5	35±5	35±5	
			下	s	30±5	30±5	30±5	30±5	
		旋回	右	s	60±10	60±10	60±10	60±10	
			左	s	60±10	60±10	60±10	60±10	
		伸縮	伸	s	33±5	33±5	33±5	33±5	
			縮	s	25±5	25±5	25±5	25±5	

$(2/2)$ [illegible]

株式会社 アイチコーポレーション

適用範囲		モデル名		SK126	SK210	SK260		
		適用号機又はスペック番号		STD	STD	STD		
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法		単位	検査基準値			
作業装置	ブーム	スライディングパット部がた	上下	mm	2以下	1以下	2以下	
			左右	mm	2以下	1以下	1以下	
		スライディングパット	摩耗量	mm	2以下	2以下	4以下	
	バケット	積載		kg	200	200	200	
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧		MPa	17.2	17.2	17.2	
				(kg/cm ²)	(175)	(175)	(175)	
		※ポンプ回転数		min ⁻¹	750	750	750	
		作動油		—	T22	T32	T32	
		油温		℃	40±10	40±10	40±10	
	油圧シリンダ	自然降下量 ※1	起伏	mm	2/10min 以下	2/10min 以下	2/10min 以下	
			伸縮	mm	2/10min 以下	2/10min 以下	2/10min 以下	
			ジャッキ	mm	1/10min 以下	1/10min 以下	1/10min 以下	
			ウインチ起伏	mm	—	—	—	
安全装置	アースリール線	抵抗値		Ω	—	—	—	
	作業範囲規制装置	測定方法 ※7	L-Max ジャッキ張出 Max 時	m / °	—	9.56~10.06 (200kg) 積載	10.0~10.49 (200kg) 積載	
		規制装置	作業範囲規制	—	○	○	○	
			モーメントリミッタ	—	—	—	—	
	インターロック	ジャッキインターロック		—	○	○	○	
		ブームインターロック		—	○	○	○	
		駐車ブレーキインターロック		—	—	—	—	
作業機用エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度	低	min ⁻¹	—	—	—	
			中	min ⁻¹	—	—	—	
			高	min ⁻¹	—	—	—	
		弁すき間	吸気弁	mm	—	—	—	
			排気弁	mm	—	—	—	
		圧縮圧力		MPa	—	—	—	
				(kg/cm ²)	—	—	—	
		※回転速度		min ⁻¹	—	—	—	
	冷却装置	ファン駆動ベルトの張り		mm	—	—	—	
		※ベルト押し付け力		N	—	—	—	
				(kgf)	—	—	—	

注) 安全装置の作業範囲規制装置測定方法は張り幅や、ウエイトの重量によって異なります。
測定方法は L-Max の他に L-Min もあります。詳細は、サービスマニュアルを参照して下さい。

株式会社 アイチコーポレーション

適用範囲		モデル名		SK126	SK210	SK260		
		適用号機又はスペック番号		STD	STD	STD		
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法	単位	検査基準値				
総合テスト	作動速度 上部	起伏 ※2-1	上	s	30±10	55±5	60±5	
			下	s	30±10	55±5	60±5	
		旋回 ※2-2	右	s	60±10	60±6	60±6	
			左	s	60±10	60±6	60±6	
		伸縮 ※2-3	伸	s	30±10	50±5	60±5	
			縮	s	25±10	50±5	60±5	
		バケット 首振速度 ※2-4	右	s	30±10	22±4	22±4	
			左	s	30±10	22±4	22±4	
		バケット 昇降速度	上	s	—	—	—	
			下	s	—	—	—	
		ウインチ 起伏速度	起	s	—	—	—	
			伏	s	—	—	—	
		ウインチ 旋回速度	右	s	—	—	—	
			左	s	—	—	—	
	作動速度 下部	起伏	上	s	30±10	60±6	65±6	
			下	s	30±10	60±6	65±6	
		旋回	右	s	60±10	80±8	80±8	
			左	s	60±10	80±8	80±8	
		伸縮	伸	s	30±10	65±6	70±7	
			縮	s	25±10	65±6	70±7	

※1. シリンダの自然降下量

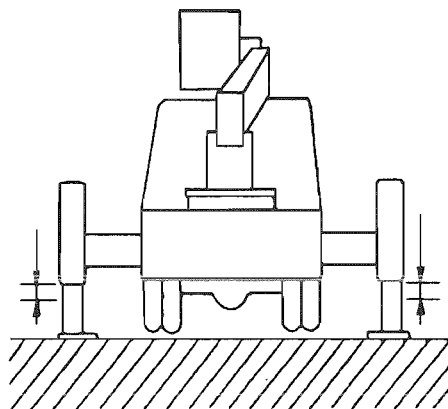
ジャッキシリンダ

[測定要量]

1. 車体を水平堅土上にセットする。
2. エンジン停止。
3. ジャッキレバーを「入」に数回操作し、残圧を抜く。
4. ジャッキポストにマーキングまたは、ダイヤルゲージをセットする。
5. 1分後、0点を合わせる。
6. 10分経過させる。
7. 自然降下量を測定する。
(前右、前左、後右、後左)

[判定基準]

ジャッキポストのストロークにて
1mm以内/10分



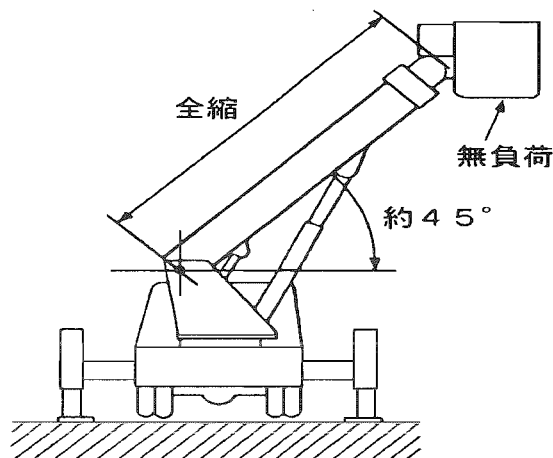
起伏シリンダ

[測定要領]

1. ブームを起伏角45°にセットする。
2. エンジンを停止させる。
3. 起伏シリンダのロッドにマーキングまたはダイヤルゲージをセットする。
4. 残圧を抜き1分後または5分後、0点を合わせる。
5. 10分間経過させる。
6. 自然降下量を測定する。

[判定基準]

ピストンロッドのストロークにて
2mm以内/10分



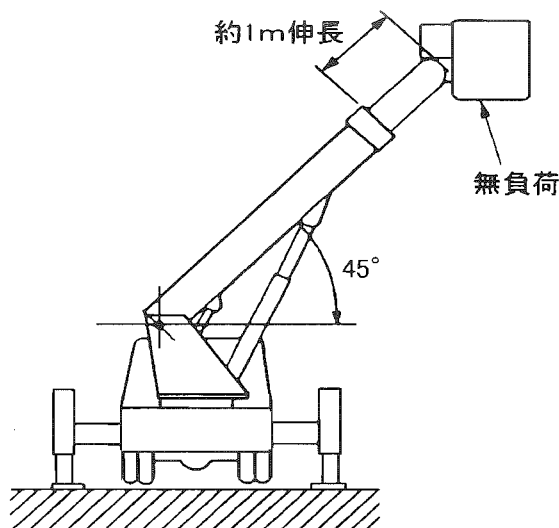
伸縮シリンダ

[検査要領]

1. ブーム起伏角を45°にセットする。
2. ブーム長さを1mにセットする。
3. エンジンを停止させる。
4. 第2ブームにマーキングまたはダイヤルゲージをセットする。
5. 残圧を抜き1分または5分後、0点を合わせる。
6. 10分経過させる。
7. 自然降下量を測定する。

[判定基準]

第2ブームのストロークにて、
2mm以内/10分

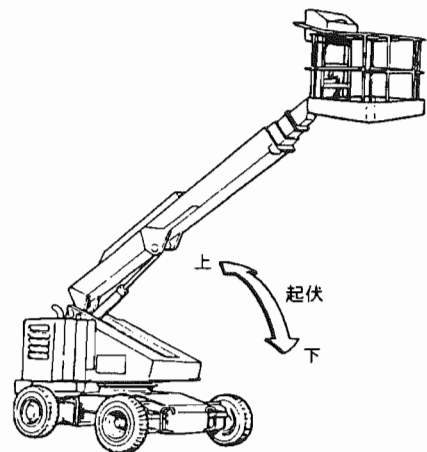


※2. 速度測定方法

1. ブーム起伏速度

[測定要領]

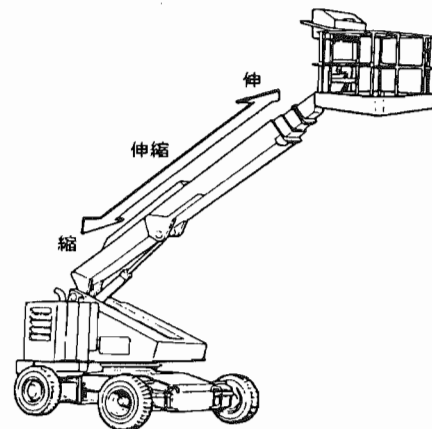
1. 車両を水平堅土上にセットする。
2. ブームを動かす方向の周囲に障害物がないか確認する。
3. 起伏「下」スイッチを押しブームを一番下まで下げる。
4. 起伏「上」スイッチを押しブームが一番上で止まるまでの時間を測定する。
5. 起伏「下」スイッチを押しブームが一番下で止まるまでの時間を測定する。



2. ブーム伸縮速度

[測定要領]

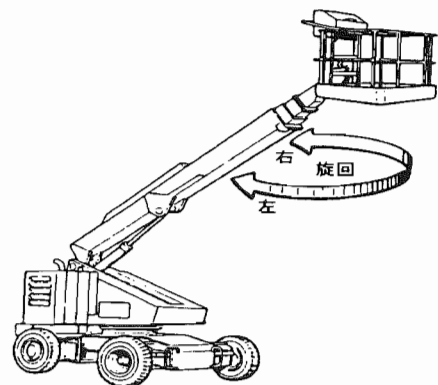
1. 車両を水平堅土上にセットする。
2. ブームを動かす方向の周囲に障害物がないか確認する。
3. 伸縮「縮」スイッチを押しブームを最縮状態まで縮める。
4. 伸縮「伸」スイッチを押しブームが最長状態で止まるまでの時間を測定する。
5. 伸縮「縮」スイッチを押しブームが最縮状態で止まるまでの時間を測定する。



3. ブーム旋回速度

[測定要領]

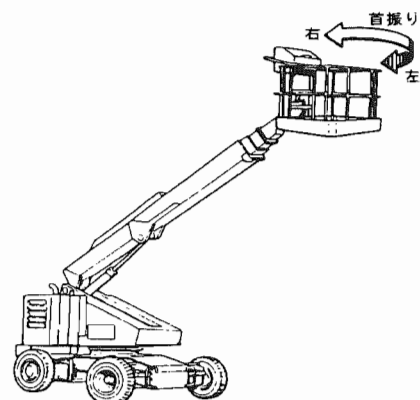
1. 車両を水平堅土上にセットする。
2. ブームを動かす方向の周囲に障害物がないか確認する。
3. 旋回する最初の位置を決め
3. 旋回「右 or 左」スイッチを押しブームを1回転させ、1回転する時間を測定する。
4. 旋回スイッチを先ほどと反対側に入れブームを1回転させ1回転する時間を測定する。
最長状態で止まるまでの時間を測定する。



4. 首振り速度

[測定要領]

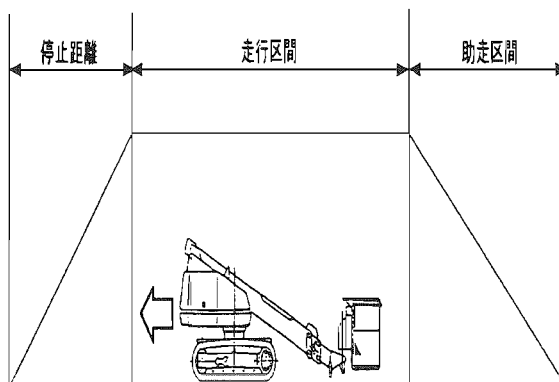
1. 車両を水平堅土上にセットする。
2. 首振りを動かす方向の周囲に障害物がないか確認する。
3. 首振り「右 or 左」スイッチを押し首振りををエンドまで動かす。
4. 首振りスイッチを押し首振りのが反対側のエンドで止まるまでの時間を測定する。
5. 首振りスイッチを反対側に押し首振りが反対側のエンドで止まるまでの時間を測定する。



※ 3. 速度測定方法

[測定要領]

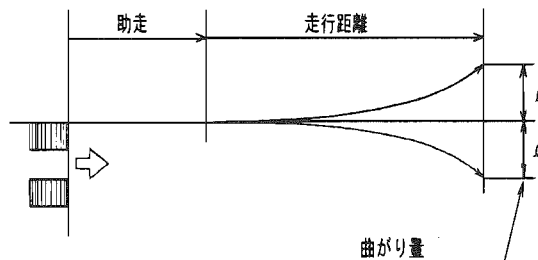
1. 車両を水平なアスファルト、コンクリートまたは堅土上にセットする。
2. 走行左右の操作レバーを両方ともいっばいに操作する。
3. 車両を最高速度になるまで助走させる。
4. 最高速度で約10m走行させ、かかった時間を測定する。



※ 4. ステアリング装置測定方法

[測定要領]

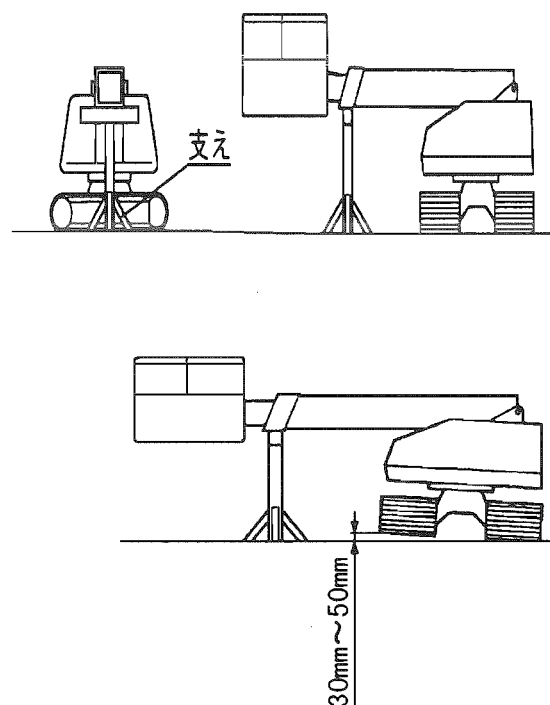
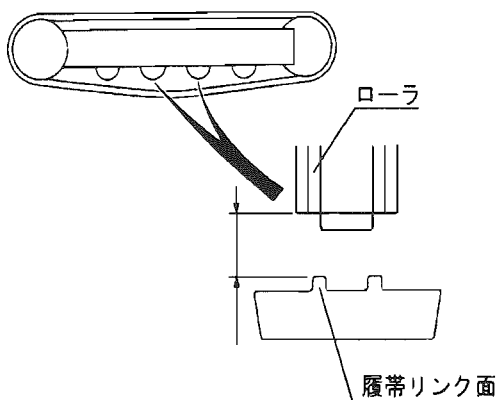
1. 車両を水平なアスファルト、コンクリートまたは堅土上にセットする。
2. 走行左右の操作レバーを両方ともいっばいに操作する。
3. 車両を最高速度になるまで助走させる。
4. 最高速度で約10m走行させ曲がった距離を測定する。



※ 5. 履帯たわみ測定方法

[測定要領]

1. 車両を水平なアスファルト、コンクリートまたは堅土上にセットする。
2. 第1ブーム先端部に支柱を入れる
3. ブーム「伏」操作を行い履帯を地面から30mm～50mm浮かせる。
4. ローラと履帯リンク面のすきまを測定する。

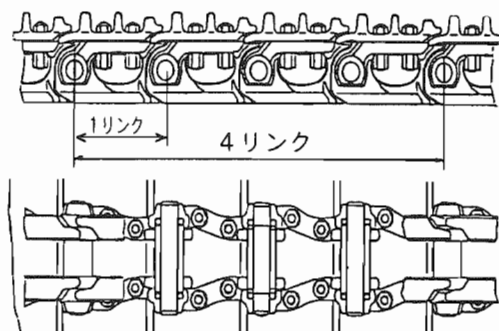


※6. 鉄製履帯リンクピッチ測定方法

[測定方法]

1. マスタピンから1～2リンク離れた4リンク分を測定する。

注. シューリンクを張った状態で測定すること。



※7. 作業半径測定方法

[検査機器]

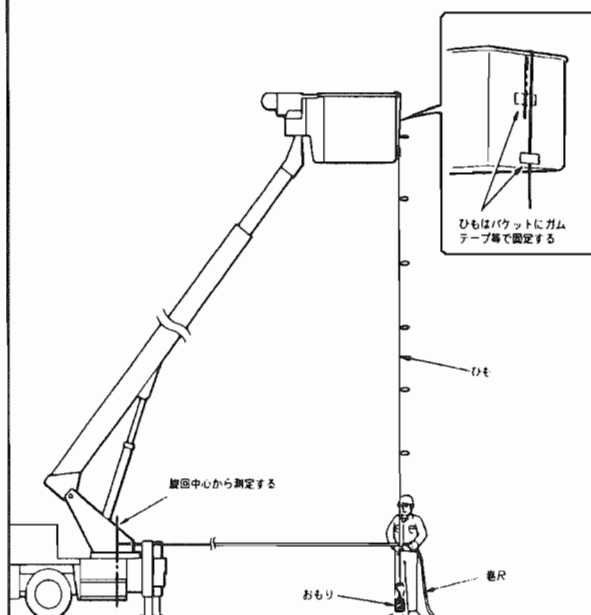
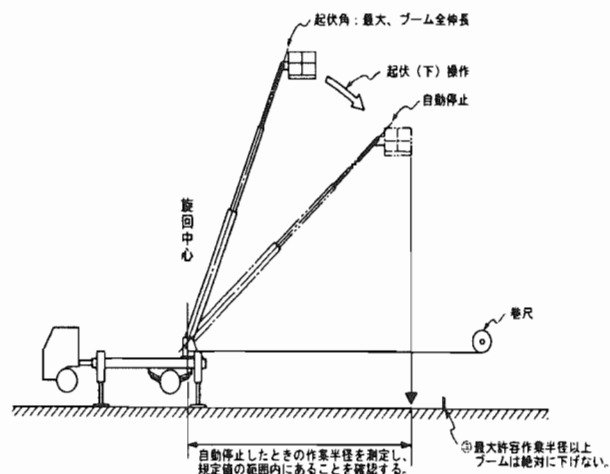
1. 角度計
2. 巻尺
3. 重垂
4. 水系

[測定例 L-Max]

※測定方法は張り幅やウエイトの重量によって異なります。

測定方法はL-Maxの他にL-Minもあります。詳細はサービスマニュアルを参照して下さい。

1. 車両は水平堅土上にセットする。
2. ジャッキにより全タイヤを地切りさせる。(ジャッキ張り出しのある車はジャッキ張り幅最大とする。)
3. 車体は前後左右水平とする。
4. バケットの積載は機種、仕様により違うので各機種のデータを参照する。
5. ブームの操作は下部操作にて行う。
6. 下部操作に操作レバーを使用している機種についてはブーム操作は微速にて行う。
7. 規定の作業半径に（最大許容作業半径）に達しても、ブームの作動が停止しない場合はそれ以上作業半径を大きくする側への操作は絶対にしない。
8. アウトリガの張幅を変更する為、ブームをブームレストに戻すまたはブームをブームレストより規定の位置に移動する際は、ブームを全縮とした後、旋回操作を行う。



株式会社 エスマック

適用範囲		モデル名			PC40-III	KC46	KC60		
		適用号機			STD	STD	STD		
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法		単位	検査基準値				
電動機	モーター	ブラシ高さ寸法 許容限界	ドライブ	mm	10以下	10以下	—		
			ポンプ	mm	12以下	12以下	10以下		
	駆動用ベルト	駆動用ベルトのたわみ ※ベルト押し付け力		mm	4	6	—		
				N (kgf)	59 (6)	78 (8)	—		
	バッテリー	電圧		V	24	24	24		
	ヒューズ	走行主回路用		A	100	100	—		
		油圧主回路用		A	150	150	275		
		主回路用		A	15	15	10		
	走行装置	履帯 クローラベルト	ゴムベルト張り（たわみ量）		mm	15～20	15～20	10～15	
走行ブレーキ		制動距離		m	—	—	—		
駐車ブレーキ		最低停止保持勾配		°	11.3	11.3	11.3		
作業装置	ブーム	スライディングパッド 部がた	前後(合計)	mm	0.5～1.0	—	—		
			左右(合計)	mm	0.5～1.0	—	—		
		スライディングパッド	摩耗量	mm	2以下	—	—		
油圧装置	油圧ポンプ	昇降	吐出圧 作動油 油温	MPa (kgf/cm ²)	12.0 (122)	13.7 (140)	18.1 (185)		
				—	VG22	VG22	VG22		
				℃	40±10	40±10	40±10		
		走行	吐出圧 作動油 油温	MPa (kgf/cm ²)	—	—	17.2 (175)		
				—	—	—	VG22		
				℃	—	—	40±10		
	油圧シリンダ	自然伸縮量	リフトシリンダ	mm/10min	3以下	3以下	3以下		
	安全装置	車体傾斜角 警報装置	作動角度	傾斜スイッチ 車体	°	2±0.5	2±0.5	3±0.5	
過積載 防止装置		作動質量		N (kgf)	1960±392 (200±40)	1960±392 (200±40)	2450±392 (250±40)		
総合テスト	作動速度	昇降	上昇	s	15 ⁺¹⁰ ₋₅	19 ⁺¹⁰ ₋₅	30±10		
			下降	s	20 ⁺¹⁰ ₋₅	27±10	40±10		
		走行	低速	km / h	0.6±0.2	0.6±0.2	0.5 ^{+0.4} ₋₀		
			中速	km / h	—	—	1.0±0.5		
			高速	km / h	2.2±0.3	2.2±0.3	1.5±0.5		

株式会社 エスマック

適用範囲		モデル名			PH40-Ⅲ	KH46	KH60Ⅱ	XH60	XH80		
		適用号機			STD	STD	STD	STD	STD		
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法		単位	検査基準値						
電動機	モーター	ブラシ高さ寸法 許容限界	ドライブ [°]	mm	—	—	—	—	—		
			ポンプ [°]	mm	12以下	12以下	10以下	10以下	10以下		
	駆動用ベルト	駆動用ベルトのたわみ		mm	—	—	—	—	—		
		※ベルト押し付け力		N (kgf)	—	—	—	—	—		
	バッテリー	電圧		V	24	24	24	24	24		
	ヒューズ	走行主回路用		A	—	—	—	—	—		
		油圧主回路用		A	150	150	150	150	300		
		主回路用		A	10	10	10	10	10		
走行装置	ホイール	ソリッドタイヤ摩耗量		—	状態により判断	状態により判断	状態により判断	状態により判断	状態により判断		
	走行ブレーキ	制動距離		m	—	—	—	—	—		
	駐車ブレーキ	最低停止可能勾配		°	7	11.3	10	11	11.3		
作業装置	ブーム	スライディング [°] パッド [°] 部がた	前後(合計)	mm	0.5～1.0	—	—	—	—		
			左右(合計)	mm	0.5～1.0	—	—	—	—		
		スライディング [°] パッド [°]	摩耗量	mm	2以下	—	—	—	—		
油圧装置	油圧ポンプ	昇降	吐出圧 作動油 油温	MPa (kgf/cm ²)	11.8 (120)	17.2 (175)	17.2 (175)	16.2 (165)	17.2 (175)		
				—	VG22	VG22	VG22	VG22	VG22		
				℃	40±10	40±10	40±10	40±10	40±10		
		走行	吐出圧 作動油 油温	MPa (kgf/cm ²)	11.8 (120)	17.2 (175)	17.2 (175)	16.2 (165)	19.0 (194)		
				—	VG22	VG22	VG22	VG22	VG22		
				℃	40±10	40±10	40±10	40±10	40±10		
		油圧シリンダ		自然伸縮量	リフトシリンダ [°]	mm/10min	3以下	3以下	3以下	3以下	3以下
		安全装置	車体傾斜角 警報装置	作動角度	傾斜スイッチ 車体	°	2±0.5	2±0.5	2±0.5	2±0.5	2±0.5
過積載 防止装置	作動質量		N (kgf)	1960±392 (200±40)	1960±392 (200±40)	2450±392 (200±40)	1960±392 (250±40)	3920±490 (200±40)			
総合テスト	作動速度	昇降	上昇	s	15 ⁺¹⁰ ₋₅	19 ⁺¹⁰ ₋₅	30±10	30±10	40±10		
			下降	s	25 ⁺¹⁰ ₋₅	27±10	35±10	35±10	50±10		
		走行	微速	km / h	—	—	—	—	0.6±0.2		
			中速	km / h	0.8±0.2	0.6±0.2	0.8±0.4	0.8±0.3	1.5±0.3		
			高速	km / h	1.6±0.4	2.2±0.3	1.6±0.4	1.8±0.6	3.0±0.6		
		操舵	右	s	2±1	5±2	6±2	5±2	3±1		
			左	s	2±1	5±2	4±2	8±2	3±1		

XH97								
STD								
検 査 基 準 値								
—								
10以下								
—								
—								
24								
—								
300								
10								
状態により判断								
—								
11								
—								
—								
—								
9.4 (96)								
VG22								
40±10								
17.2 (175)								
VG22								
40±10								
3以下								
2±0.5								
2450±392 (250±40)								
65±10								
70±10								
0.6±0.2								
1.5±0.3								
3.0±0.6								
3±1								
3±1								

株式会社 エスマック

適用範囲		モデル名		TS80	TS100Ⅳ	ST99Ⅱ	ST125	
		適用号機		STD	STD	STD	STD	
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法		単位	検査基準値			
作業装置	ブーム	スライディング・パット部がた	上下(合計)	mm	2以下	2以下	2以下	2以下
			左右(合計)	mm	1以下	1以下	1以下	1以下
		スライディング・パット	摩耗量	mm	2以下	2以下	2以下	2以下
	バケット	積載		kg	125	200	200	200
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧		MPa	13.7±0.5	17.2±0.5	17.2±0.5	17.2±0.5
				(kgf/cm ²)	(140±5)	(175±5)	(175±5)	(175±5)
		ポンプ回転数		min ⁻¹	600	650	600	700
		作動油		—	VG22	VG22	VG22	VG22
		油温		℃	40±10	40±10	40±10	40±10
	油圧シリンダ	自然伸縮量	起伏	mm/10min	2以下	2以下	2以下	2以下
			伸縮	mm/10min	2以下	2以下	2以下	2以下
			ジャッキ	mm/10min	1以下	1以下	1以下	1以下
安全装置	アースリール線	抵抗値		Ω	1以下	1以下	—	—
	作業範囲規制装置	作業範囲規制		—	—	—	—	—
		モータトリミット		—	—	—	—	—
	インターロック	ジャッキインターロック		—	○	○	○	○
		ブームインターロック		—	○	○	○	○
総合テスト	キャブ 干渉防止装置	干渉防止の為、旋回、起伏下げが自動停止することを確認する。		—	○	○	—	—
	作動速度 上部 ※乗員 1 名	起伏 ※ブーム全縮	上	s	30±5	30±5	30±10	30±10
			下	s	30±5	35±5	30±10	30±10
		旋回 ※ブーム全縮 起伏最大	右	s	60±10	60±10	60±10	60±10
			左	s	60±10	60±10	60±10	60±10
		伸縮 ※起伏最大	伸	s	20±5	24±5	25±5	30±10
			縮	s	17±5	17±5	15±5	25±10
		バケット 首振速度	右	s	30±10	30±10	30±10	30±10
			左	s	30±10	30±10	30±10	30±10
	作動速度 下部 ※無積載	起伏 ※ブーム全縮	上	s	30±5	30±5	30±10	30±10
			下	s	30±5	35±5	30±10	30±10
		旋回 ※ブーム全縮 起伏最大	右	s	60±10	60±10	60±10	60±10
			左	s	60±10	60±10	60±10	60±10
		伸縮 ※起伏最大	伸	s	20±5	24±5	25±10	30±10
			縮	s	17±5	17±5	15±10	25±10

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名		AW-215TG-2	AW-250TG-2	AW-370TG-1	
		適用号機		285251～	420276～	HE0049～	
		スペック番号		-81011	-81011	-81011	
区分	検査箇所	適用項目 ※条件		単位	検査基準値		
エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度	無負荷時	min ⁻¹	2300±25	2300±25	2300±25
		弁すき間 ※冷態時	吸気弁	mm	0.4	0.4	0.4
			排気弁	mm	0.4	0.4	0.4
		圧縮圧力		MPa	1.96～2.55	1.96～2.55	1.96～2.55
				(kgf/cm ²)	(20～26)	(20～26)	(20～26)
		※回転速度		min ⁻¹	200	200	200
	冷却装置	ファン駆動ベルトの張り		mm	10～15	10～15	10～15
		※ベルト押し付け力		N (kgf)	98 (10)	98 (10)	98 (10)
	バッテリー	比重 ※液温20℃		—	1.22以上	1.22以上	1.22以上
走行装置	ホイール	ニューマチックタイヤ	空気圧	MPa (kg/cm ²)	—	—	—
		リットタイヤ	摩耗量	—	ノーパソクタイ	ノーパソクタイ	ノーパソクタイ
	走行ブレーキ	制動距離		m	—	—	—
	駐車ブレーキ	ドラムとライニングのすき間		mm	—	—	—
		最低停止可能勾配		°	1/5勾配 11°19'	1/5勾配 11°19'	1/5勾配 11°19'
作業装置	ブーム	スライディングパッド部がた	上下方向	mm	3以下	3以下	3以下
			左右方向	mm	2以下	2以下	2以下
		スライディングパッド	摩耗量	mm	—	—	—
			残り代	mm	—	—	—
		ラップ部底板へこみ	セカント	mm	3以下	3以下	4以下
			トップ (サード)	mm	2.5以下	2.5以下	(3以下)
			トップ	mm	—	—	2.5以下
		局部へこみ 但し、へこみ長さは50mm 以上		mm	2以下	2以下	2以下
	伸縮リヤたるみ	セカント、トップ (サード) ブームの伸長差 ※ブーム水平状態でセカントブームを全縮より約10cm 伸長する。		mm	10以下	10以下	10以下
	平衡装置	①起伏上げ操作にて作業床の測定位置を決める ②作業床内の測定場所に水準器を置き、作業床基準値を測定する。 ③ストロークまで起伏の上げ下げを10回行う。(BT のみ2回) ④測定位置へ起伏上げ操作で停止させる。 ⑤作業床の角度変位量を測定する。 ①～⑤まで測定後④より ①測定位置より起伏を上げる。 ②測定位置へ起伏下げ操作で停止させる。 ③作業床の角度変位量を測定する。		°	1°以下	1°以下	1°以下
					2°以下	2°以下	2°以下

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名			AW-215TG-2	AW-250TG-2	AW-370TG-1		
		適用号機			285251～	420276～	HE0049～		
		スペック番号			-81011	-81011	-81011		
区分	検査箇所	適用項目 ※条件			単位	検査基準値			
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧	No1 ポンプ	ブーム全縮水平、4輪に歯止めをし、下部操作で低速前進操作	MPa (kgf/cm ²)	20.6±0.5 (210±5)	22.5±0.5 (230±5)	23.5±0.5 (240±5)	
			No2 ポンプ	右ステアリングストロークエンド操作、アクセル低速※ジャッキ装置無し		13.7±0.5 (140±5)	11.8±0.5 (120±5)	11.8±0.5 (120±5)	
				右ステアリングストロークエンド操作、アクセル低速※ジャッキ装置有り		—	13.7±0.5 (140±5)	15.7±0.5 (160±5)	
		油温			℃	40±5	40±5	40±5	
		ポンプ回転数 ※無負荷時		高速	min ⁻¹	2300±25	2300±25	2300±25	
	低速			1125±25		1125±25	1125±25		
	油圧シリンダ 作業床は無負荷ハブ操作は上げ・伸び操作後中立、エンジン停止時の自然降下量	自然降下量 ※1	起伏 ※ブーム水平全縮状態		mm/10min	2以下	2以下	2以下	
			伸縮 ※起伏最大角状態・ブーム約10cm 伸長状態		mm/10min	3以下	3以下	3以下	
			平衡装置 ※ブーム水平全縮状態・セレクトハブは開		mm/10min	1以下	1以下	1以下	
	安全装置	車体傾斜角 警報装置	ブーム起伏角 10°以下			°	4.5±0.5以上	4.5±0.5以上	4.5±0.5以上
ブーム起伏角 10°以上			°	3±0.5以上	3±0.5以上	3±0.5以上			
作業範囲 規制装置		測定方法 ※4	規制装置	作業範囲規制	AMC3	○	—	—	
				モメントリミッタ	AMC3	—	○	○	
タッチスイッチ		スイッチを動作させるハブスロット中央部のワイヤーロープ変位量			mm	30±10	30±10	30±10	
速度規制装置		走行中にブーム起伏角度が10°を越える状態では微速モードとなる事を確認する。			—	確認	確認	確認	
アトリガ張出検出装置					—	—	—		
旋回警報装置 走行警報装置		ブーム旋回・走行操作を行うとブザーが断続音で鳴る。			—	確認	確認	確認	
過積載防止装置					kg	—	—	—	
ロックピン					—	—	—	—	
総合テスト	作動速度 ※2	起伏 ※ブーム全縮		上	s	55±11	50±10	52±10	
		伸縮 ※起伏角度最大		伸	s	53±10	62±12	93±18	
		旋回 ※起伏角度最大、 ブーム全縮	右	s	75±15	75±15	75±15		
			左						
		バケット首振速度		右	s	円滑に作動	円滑に作動	円滑に作動	
				左					
		走行	前進/高速 20m 間			s	—	—	—
			後進/高速 20m 間			s	—	—	—
			前進 ※10m区間、ブーム全縮 起伏角度水平、高速走行			s/10m	9±2	9±2	9±2

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名		AC-40-1	AC-40-1		
		適用号機		ZD1495～	ZD1582～		
		スペック番号		-80101 -80102	-80103		
区分	検査箇所	適用項目 ※条件		単位	検査基準値		
電動機	電動機	ブラシ高さ	走行用	mm	7以上	7以上	
			伸長用	mm	10以上	10以上	
	バッテリー	型式			鉛蓄電池	MF バッテリ	
		電圧		V	—	—	
比重 ※ 液温 20℃			1.22以上	—			
走行装置	履帯 ※3	第3 転輪と履帯内面隙間 ※履帯下側（機体を吊上げて測定）		mm	10～20	10～20	
	駆動チェーン ※3	チェーン張り（たわみ量） ※チェーン上側中央を49N（5 kgf）で押す		mm	8～10	8～10	
	走行ブレーキ	制動距離		m	—	—	
	駐車ブレーキ	最低停止保持勾配		°	1/5勾配 11°19'	1/5勾配 11°19'	
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧		MPa (kgf/cm ²)	10.3 ^{+10.5} ₀ (105 ⁺⁵ ₀)	10.3 ^{+10.5} ₀ (105 ⁺⁵ ₀)	
		ポンプ回転数		min ⁻¹	—	—	
安全装置	油圧シリンダ	自然伸縮量	昇降用※作業床降下量	mm/10min	3mm 以下	3mm 以下	
	車体傾斜角 警報装置	リフト高さ 1.5m 未満	前後左右	°	3°±0.5	3°±0.5	
		リフト高さ 1.5m 以上			2°±0.5	2°±0.5	
	過積載 防止装置	上昇しない事を確認する。		kg	210～300 ブザーが鳴る	210～300 ブザーが鳴る	
	走行規制装置	リフト高さ0.6m 未満で3° 以上傾斜すると高速走行及びスピントーンができない。		—	○	○	
		リフト高さ0.6m 以上で3° 以上傾斜すると走行できない。		—	○	○	
		リフト高さ0.6m 以上1.5m未満の時、3° 未満傾斜であれば低速走行できる。		—	○	○	
		リフト高さ1.5m以上の時、2°未満傾斜であれば微速走行できる。		—	○	○	
		リフト高さ1.5m以上の時、2°以上傾斜すると走行できない。		—	○	○	
				—	—	—	
作業台 インターロック装置	走行中にプラットフォームの上昇はできない。		—	○	○		
総合テスト	作動速度	走行 ※10m 区間 高速走行、乗員1名	前進	s/10m	20±4	20±4	
			後進	s/10m			
		昇降 ※乗員1名	上昇	s	19±3	19±3	

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名			AT-100TG-3	AT-121TG-1	AT-130TG-1	AT-170TG-1		
		適用号機			217437～	HJ0001～	587730～	230281～		
		スペック番号			-00001/2	-00001	-00013	-00010		
区分	検査箇所	適用項目 ※条件			単位	検査基準値				
作業装置	ブーム	スライディングパッド部がた		上下方向	mm	3以下	3以下	3以下	3以下	
				左右方向	mm	2以下	2以下	2以下	2以下	
				丸形ブームの場合ブーム全縮で1名バケットに乗り込み、左右に首振りを行って丸形ブームの円周上の変位量を測定する。			mm	—	—	—
		BTパッド部がた	ブーム	上下方向	mm	—	—	—	—	
			ブーム	左右方向	mm	—	—	—	—	
		ポスト部	セカンド縦横共（片側）	mm	—	—	—	—		
			サード縦横共（片側）	mm	—	—	—	—		
			フォース縦横共（片側）	mm	—	—	—	—		
			トップ縦横共（片側）	mm	—	—	—	—		
		スライディングパッド 摩耗量			mm	—	—	—	—	
		底板ラップ部へこみ		セカンド	mm	2.5以下	2.5以下	2.5以下	2.5以下	
				サード、トップ	mm	2.0以下	2.0以下	2.0以下	2.0以下	
				ポスト部	セカンド	mm	—	—	—	—
					サード	mm	—	—	—	—
					フォース	mm	—	—	—	—
					トップ	mm	—	—	—	—
		局部へこみ （但し、へこみ長さは50mm 以上）			mm	2以下	2以下	2以下	2以下	
	伸縮リヤたるみ	セカンド、トップ（サード）ブームの伸長差 （ブーム水平状態でセカンドブームを全縮より約10cm 伸長する。）			mm	10以下	10以下	10以下	10以下	
		調整用ナット締付けトルク		縮側 サード トップ 伸側 サード トップ	N・m (kgf・m)	6.4 (0.65) 8.3 (0.85)	6.4 (0.65) 8.3 (0.85)	11.8 (1.2) 15.7 (1.6)	11.8 (1.2) 15.7 (1.6)	
	平衡装置	①起伏上げ操作にて作業床の測定位置を決める。			。	1°以下	1°以下	1°以下	1°以下	
		②作業床内の測定場所に水準器を置き、作業床基準値を測定する。								
		③スロークレンドまで起伏の上げ下げを10回行う。（BT のみ2回）								
		④測定位置へ起伏上げ操作で停止させる。								
		⑤作業床の角度変位量を測定する。								
		①～⑤まで測定後④より				2.5°以下	2.5°以下	2.5°以下	2.5°以下	
		①測定位置より起伏を上げる。								
		②測定位置へ起伏下げ操作で停止させる。								
	③作業床の角度変位量を測定する。									

AT-220TG-1	AT-270TG-2							
380284~	370404~							
-00010	-00001							
検 査 基 準 値								
3以下	3以下							
2以下	2以下							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
2.5以下	2.5以下							
2.0以下	2.0以下							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
2以下	2以下							
10以下	10以下							
19 (1.9) 4.8 (0.49)	19 (1.9) 5.9 (0.6)							
22 (2.2) 6.4 (0.65)	22 (2.2) 7.9 (0.8)							
1° 以下	1° 以下							
2.5° 以下	2.5° 以下							

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名		AT-100TG-3	AT-121TG-1	AT-130TG-1	AT-170TG-1	
		適用号機		217437～	HJ0001～	587730～	230281～	
		スペック番号		-00001/2	-00001	-00013	-00010	
区分	検査箇所	適用項目 ※条件		単位	検査基準値			
	増圧器	プースター 68.6Mpa (700kgf/cm ²) 用		MPa (kgf/cm ²)	—	—	—	—
	首振り装置 (BT のみ)	プラットフォーム旋回角度		°	—	—	—	—
		プラットフォーム旋回の作動		コメント	—	—	—	—
		プラットフォームスライド ^① の作動		コメント	—	—	—	—
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧 ※リヤアウトリガ前側のゲージポート		MPa	17.2±0.5	17.2±0.5	17.2±0.5	17.2±0.5
				(kgf/cm ²)	(175±5)	(175±5)	(175±5)	(175±5)
		ポンプ回転数 ※高速 (負荷時) () は いすゞ車		min ⁻¹	900±25	900±25	950±35 (1000±25)	950±35 (1000±25)
		作動油		—	—	—	—	—
		油温		℃	40±5	40±5	40±5	40±5
		ポンプ回転数 ※中速 (負荷時) () は いすゞ車		min ⁻¹	—	—	720±20 (750±20)	720±20 (750±20)
		ポンプ回転数 ※低速 (負荷時) (いすゞ) 「三菱」		min ⁻¹	630±20 「700±20」	630±20 「700±20」	515±20 (525±20)	515±20 (525±20)
	油圧シリンダ ※作業床は無 負荷、パワー 操作は上げ・伸 び操作後中立、エンジン 停止後の自然 降下量	自然降下量 ※1	起伏 ※ブーム水平、全縮状態	mm	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分
			伸縮 ※起伏角度最大、ブーム約10cm 伸長状態	mm	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分
			バケット起伏 ※ブーム・バケット水平状態	mm	—	—	—	—
			昇降 ※ブーム水平、全縮状態		—	—	—	—
			ジャッキ	mm	—	—	—	—
			アウトリガ・ジャッキ ※シリンダストロークエンド手前停止状態	mm	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分
			平衡装置 ※ブーム水平、全縮状態・セレクトバルブ ^② は開	mm	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分
			ウインチ起伏	mm	—	—	—	—
			屈伸 ※測定可能起伏角度でブーム全縮状態	mm	—	—	—	—

AT-220TG-1	AT-270TG-2							
380284~	370404~							
-00010	-00001							
検 査 基 準 値								
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
17.2±0.5	17.2±0.5							
(175±5)	(175±5)							
950±35 (1000±25)	1000±30							
—	—							
40±5	40±5							
720±20 (750±20)	860±20							
515±20 (525±20)	710±15							
2mm 以下/10分	2mm 以下/10分							
3mm 以下/10分	3mm 以下/10分							
—	—							
—	—							
—	—							
1mm 以下/10分	1mm 以下/10分							
1mm 以下/10分	1mm 以下/10分							
—	—							
—	—							

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名			AT-100TG-3	AT-121TG-1	AT-130TG-1	AT-170TG-1	
		適用号機			217437～	HJ0001～	587730～	230281～	
		スペック番号			-00001/2	-00001	-00013	-00010	
区分	検査箇所	適用項目 ※条件			単位	検査基準値			
安全装置	アースリール線	抵抗値			Ω	—	—	—	—
	作業範囲規制装置	測定方法 ※4	規制装置	作業範囲規制	AMC3	○	○	○	○
				モーメントリミット	AMC3	—	—	—	—
	起伏角度規制装置	100kg仕様	フロントアウトリガ最小張出でブーム全伸における起伏停止角度は		°	—	—	—	—
			フロントアウトリガ最小張出で起伏角停止角度未満におけるブーム伸長停止長さは		mm	—	—	—	—
		200kg仕様	ブーム全伸における起伏停止角		°	—	—	—	—
			起伏角停止角度未満におけるブーム伸長停止角度は		mm	—	—	—	—
	車輻・ブーム干渉防止装置	旋回、伏、伸縮、首振り自動停止する事。※ブームレスト格納付近は停止しない			—	確認	確認	確認	確認
その他規制装置				—	—	—	—	—	
アウトリガタイヤ				—	—	—	—	—	
総合テスト	※バケット・プラットフォーム側で乗員1名	起伏 ※ブーム全縮	上	s	30±6	30±6	30±6	35±7	
		旋回※起伏角度最大、 ブーム全縮	右	s	60±12	60±12	50±10	50±10	
			左	s					
		伸縮 ※起伏角度最大	伸	s	20±4	28±6	30±6	44±9	
		バケット首振速度	右	s	円滑に作動	円滑に作動	円滑に作動	円滑に作動	
			左	s					
		プラットフォーム旋回	右	s	—	—	—	—	
	左		s						
	折り曲げ	伸び	s	—	—	—	—		
	バケット側操作：無負荷	ウインチ巻上速度			min ⁻¹	—	—	—	—
低騒音エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度	負荷時	—	—	—	—	—	
			アイドリング	—	—	—	—	—	
		弁すき間（冷態時）	吸気弁	mm	—	—	—	—	
			排気弁						
		圧縮圧力（スターターモーターを5～10秒間回し、最大値を読む）	基準値	MPa	—	—	—	—	
			限度	MPa					
	潤滑装置（エンジン油圧）			—	—	—	—	—	

注) 作動速度、安全装置の作業範囲規制装置測定方法は張り幅や、ウエイトの重量によって異なります。
詳細は、サービスマニュアルを参照して下さい。

AT-220TG-1	AT-270TG-2							
380284～	370404～							
-00010	-00001							
検 査 基 準 値								
—	—							
—	—							
○	○							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
確認	確認							
—	—							
—	—							
50±10	50±10							
60±12	60±12							
50±10	60±12							
円滑に作動	円滑に作動							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							

株式会社 タダノ

適用範囲			モデル名		AT-72TT-1	AT-80TT-1	AT-100TE-2	AT-110TE-1		
			適用号機		HH5001～	HH5001～	217390～	217382～		
			スペック番号		-***01～03 -***12	-***10～12 -***21 -***41	-***61以降	-***61以降		
区分	検査箇所		適用項目 ※条件		単位	検査基準値				
作業装置	ブーム	スライディングハット部がた	上下方向		mm	3以下	3以下	3以下	3以下	
			左右方向		mm	2以下	2以下	2以下	2以下	
			丸形ブームの場合ブーム全縮で1名ハケットに乗り込み、左右に首振りを行って丸形ブームの円周上の変位量を測定する。		mm	—	—	—	—	
		BTパッド部がた	ブーム	上下方向		mm	—	—	—	—
				左右方向		mm	—	—	—	—
		ポスト部	セカント縦横共（片側）		mm	—	—	—	—	
			サート縦横共（片側）		mm	—	—	—	—	
			フォース縦横共（片側）		mm	—	—	—	—	
			トップ縦横共（片側）		mm	—	—	—	—	
		スライディングハット 摩耗量		mm	—	—	—	—		
		底板ラップ部へこみ	セカント		mm	2.5以下	2.5以下	2.5以下	2.5以下	
			サート、トップ		mm	2以下	2以下	—	—	
			ポスト部	セカント	mm	—	—	—	—	
				サート	mm	—	—	—	—	
				フォース	mm	—	—	—	—	
				トップ	mm	—	—	—	—	
		局部へこみ （但し、へこみ長さは50mm 以上）		mm	2以下	2以下	2以下	2以下		
	伸縮リヤたるみ	セカント、トップ（サート）ブームの伸長差 （ブーム水平状態でセカントブームを全縮より約10cm 伸長する。）		mm	10以下	10以下	10以下	10以下		
		調整用ナット締付けトルク	縮側	N・m	4.2（0.43）	4.2（0.43）	6.4（0.65）	6.4（0.65）		
			伸側	（kgf・m）	4.9（0.50）	4.9（0.50）	8.3（0.85）	8.3（0.85）		
	平衡装置	①起伏上げ操作にて作業床の測定位置を決める。		。	1°以下	1°以下	1°以下	1°以下		
		②作業床内の測定場所に水準器を置き、作業床基準値を測定する。								
		③ストロークまで起伏の上げ下げを10回行う。（BT のみ2回）								
		④測定位置へ起伏上げ操作で停止させる。								
		⑤作業床の角度変位量を測定する。								
		①～⑤まで測定後④より			2°以下	2°以下	2°以下	2°以下		
		①測定位置より起伏を上げる。								
		②測定位置へ起伏下げ操作で停止させる。								
	③作業床の角度変位量を測定する。									

AT-146TE-2			AT-147CE-2					
227416～	227416～	227416～	590138～	590138～				
-***03 -***09 -***12	-***01 -***04 -***07 -***10	-***02	-***01	-***02				
検 査 基 準 値								
3以下	3以下	3以下	3以下	3以下				
2以下	2以下	2以下	2以下	2以下				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
2.5以下	2.5以下	2.5以下	2.5以下	2.5以下				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
2以下	2以下	2以下	2以下	2以下				
10以下	10以下	10以下	10以下	10以下				
9.8 (1.0)	9.8 (1.0)	9.8 (1.0)	9.8 (1.0)	9.8 (1.0)				
15.7 (1.6)	15.7 (1.6)	15.7 (1.6)	15.7 (1.6)	15.7 (1.6)				
1° 以下	1° 以下	1° 以下	1° 以下	1° 以下				
2° 以下	2° 以下	2° 以下	2° 以下	2° 以下				

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名		AT-72TT-1	AT-80TT-1	AT-100TE-2	AT-110TE-1
		適用号機		HH5001～	HH5001～	217390～	217382～
		スペック番号		-***01～03 -***12	-***10～12 -***21 -***41	-***61以降	-***61以降
区分	検査箇所	適用項目 ※条件		単位	検査基準値		
	増圧器	プーaster 68.6Mpa (700kgf/cm ²) 用		MPa (kgf/cm ²)	—	—	70±1.5 (715±15)
	首振り装置 (BT のみ)	デッキ旋回角度		°	—	—	—
		プラットフォーム旋回の作動		コメント	—	—	—
		プラットフォームスライダの作動		コメント	—	—	—
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧 ※リヤアウトリガ前側のゲージポート		MPa (kgf/cm ²)	12.7±0.5 (130±5)	12.7±0.5 (130±5)	17.2±0.5 (175±5)
		ポンプ回転数 ※高速 (負荷時)		min ⁻¹	715±25	715±25	900±25
		作動油		—	—	—	—
		油温		℃	40±5	40±5	40±5
		ポンプ回転数 ※中速 (負荷時)		min ⁻¹	—	—	—
		ポンプ回転数 ※低速 (負荷時)		min ⁻¹	—	—	700±20 (630±20)
	油圧シリンダ	※作業床は無 負荷、レバー操 作は上げ・伸 び操作後中立、エンジン 停止後の自然 降下量 ※1		起伏 ※ブーム水平、全縮状態	mm	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分
				伸縮 ※起伏角度最大、ブーム約10cm 伸長状態	mm	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分
				バケット起伏 ※ブーム・バケット水平状態	mm	—	—
				昇降 ※ブーム水平、全縮状態	mm	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分
				ジャッキ	mm	—	—
				アウトリガ・ジャッキ ※シリンダストローク前停止状態	mm	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分
				平衡装置 ※ブーム水平、全縮状態・セレクトバルブは開	mm	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分
				ウインチ起伏	mm	—	—
				屈伸 ※測定可能起伏角度でブーム全縮状態	mm	—	—

AT-146TE-2			AT-147CE-2					
227416～	227416～	227416～	590138～	590138～				
***03 ***09 ***12	***01 ***04 ***07 ***10	***02	***01	***02				
検 査 基 準 値								
70±1.5 (715±15)	70±1.5 (715±15)	70±1.5 (715±15)	70±1.5 (715±15)	70±1.5 (715±15)				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
17.2±0.5 (175±5)	17.2±0.5 (175±5)	17.2±0.5 (175±5)	17.2±0.5 (175±5)	17.2±0.5 (175±5)				
1000±25 「950±35」	1000±25 「950±35」	1000±25 「950±35」	1000±25 「950±35」	1000±25 「950±35」				
—	—	—	—	—				
40±5	40±5	40±5	40±5	40±5				
750±20 「720±20」	750±20 「720±20」	750±20 「720±20」	750±20 「720±20」	750±20 「720±20」				
525±20 「515±20」	525±20 「515±20」	525±20 「515±20」	525±20 「515±20」	525±20 「515±20」				
2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分				
3mm 以下/10分	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分				
—	—	—	—	—				
2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分				
—	—	—	—	—				
1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分				
1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名			AT-72TT-1	AT-80TT-1	AT-100TE-2	AT-110TE-1	
		適用号機			HH5001～	HH5001～	217390～	217382～	
		スペック番号			-***01～03 -***12	-***10～12 -***21 -***41	-***61以降	-***61以降	
区分	検査箇所	適用項目 ※条件			単位	検査基準値			
安全装置	アースリール線	抵抗値			Ω	1以下	1以下	1以下	1以下
	作業範囲規制装置	測定方法 ※4	規制装置	作業範囲規制	AMC3	—	—	○	○
				モーメントリミット	AMC3	—	—	—	—
	起伏角度規制装置	100kg仕様	フロントアウトリガが最小張出でブーム全伸における起伏停止角度は	°	—	—	※注	※注	
			フロントアウトリガが最小張出で起伏角停止角度未満におけるブーム伸長停止長さ	mm	—	—	※注	※注	
		200kg仕様	ブーム全伸における起伏停止角	°	—	—	※注	※注	
			起伏角停止角度未満におけるブーム伸長停止角度は	mm	—	—	※注	※注	
	車輻・ブーム干渉防止装置	旋回、伏、伸縮、首振りが自動停止する事。※ブームレスト格納付近は停止しない			—	確認	確認	確認	確認
	その他規制装置				—	—	—	—	—
	アウトリガタイヤ				—	—	—	—	—
総合テスト	※バケット・プラットフォーム側で操作乗員1名	起伏 ※ブーム全縮		上	s	35±7	40±8	25±5	25±5
		旋回※起伏角度最大、ブーム全縮		右	s	60±12	60±12	50±10	50±10
				左	s				
		伸縮 ※起伏角度最大		伸	s	20±4	20±4	15±3	18±4 (22±5：B)
		バケット首振速度		右	s	円滑に作動	円滑に作動	円滑に作動	円滑に作動
				左	s				
		プラットフォーム旋回		右	s	—	—	—	—
				左	s				
		折り曲げ		伸び	s / 15m	—	—	—	—
	ウインチ巻上速度 ※1.5m区間、無負荷					min ⁻¹	—	—	—
低騒音エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度		負荷時	min ⁻¹	—	—	—	1200±30
				アイドル時		—	—	—	1000 ⁺¹⁰⁰ ₀
		弁すき間（冷態時）		吸気弁	mm	—	—	—	0.145-0.185
				排気弁		—	—	—	
		圧縮圧力（スターターモーターを5～10秒間回し、最大値を読む）		基準値	MPa	—	—	—	2.84～3.24
				限度	MPa	—	—	—	2.26
	潤滑装置（エンジン油圧）						—	—	—

注) 作動速度、安全装置の作業範囲規制装置測定方法は張り幅や、ウエイトの重量によって異なります。詳細は、サービスマニュアルを参照して下さい。

AT-146TE-2			AT-147CE-2					
227416～	227416～	227416～	590138～	590138～				
-***03 -***09 -***12	-***01 -***04 -***07 -***10	-***02	-***01	-***02				
検 査 基 準 値								
1以下	1以下	1以下	1以下	1以下				
—	—	—	—	—				
○	○	○	○	○				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
確認	確認	確認	確認	確認				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
30±6	30±6 (L、PTO 共)	32±7 (B) (30±6:PTO)	30±6 (L、PTO 共)	35±7 (B) (30±6:PTO)				
50±10	50±10 (L、PTO 共)	50±10 (L、PTO 共)	50±10 (L、PTO 共)	50±10 (L、PTO 共)				
33±7	33±7 (L、PTO 共)	36±7 (B) (33±7:PTO)	33±7 (L、PTO 共)	36±7 (B) (33±7:PTO)				
円滑に作動	円滑に作動	円滑に作動	円滑に作動	円滑に作動				
—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—				
22±5	22±5 (L、PTO 共)	30±6 (B) 22±5 (PTO)	26±5 (L、PTO 共)	30±6 (B) 26±5 (PTO)				
—	1200±30	—	1200±30	—				
—	1000 ⁺¹⁰⁰ ₀	—	1000 ⁺¹⁰ ₀	—				
—	0.145-0.185	—	0.145-0.185	—				
—	2.84～3.24	—	2.84～3.24	—				
—	2.26	—	2.26	—				
—	パイロット ランプ点灯	—	パイロット ランプ点灯	—				

株式会社 タダノ

適用範囲			モデル名		AT-100S-2	AT-120S-2	AT-120SR-2	AT-120SRM-2		
			適用号機		HF0161～	HA5455～	HA5422～	HA5458～		
			スペック番号		-***31	-***31	-***01	-***61		
区分	検査箇所		適用項目 ※条件		単位	検査基準値				
作業装置	ブーム	スライディングハット部がた	上下方向		mm	2以下	2以下	2以下	2以下	
			左右方向		mm	2以下	2以下	2以下	2以下	
			丸形ブームの場合ブーム全縮で1名ハットに乗り込み、左右に首振りを行って丸形ブームの円周上の変位量を測定する。		mm	—	—	—	—	
		BTパッド部がた	ブーム	上下方向		mm	—	—	—	—
				左右方向		mm	—	—	—	—
			ポスト部	セカンド縦横共（片側）		mm	—	—	—	—
				サード縦横共（片側）		mm	—	—	—	—
				フォース縦横共（片側）		mm	—	—	—	—
				トップ縦横共（片側）		mm	—	—	—	—
		スライディングハット 摩耗量		mm	—	—	—	—		
		底板ラップ部へこみ	ポスト部	セカンド		mm	2.5以下	2.5以下	2.5以下	2.5以下
				サード、トップ		mm	2以下	2以下	2以下	2以下
				セカンド		mm	—	—	—	—
				サード		mm	—	—	—	—
				フォース		mm	—	—	—	—
				トップ		mm	—	—	—	—
		局部へこみ（但し、へこみ長さは50mm以上）		mm	2以下	2以下	2以下	2以下		
	伸縮ワイヤたるみ	セカンド、トップ（サード）ブームの伸長差（ブーム水平状態でセカンドブームを全縮より約10cm伸長する。）		mm	10以下	10以下	10以下	10以下		
		調整用ナット締付けトルク	縮側	N・m	15.7（1.6）	15.7（1.6）	15.7（1.6）	15.7（1.6）		
	伸側		(kgf・m)	17.7（1.8）	17.7（1.8）	17.7（1.8）	17.7（1.8）			
	平衡装置	①起伏上げ操作にて作業床の測定位置を決める。		。	2°以下	2°以下	2°以下	2°以下		
		②作業床内の測定場所に水準器を置き、作業床基準値を測定する。								
		③ストロークまで起伏の上げ下げを10回行う。（BTのみ2回）								
		④測定位置へ起伏上げ操作で停止させる。								
		⑤作業床の角度変位量を測定する。								
		①～⑤まで測定後④より			3°以下	3°以下	3°以下	3°以下		
		①測定位置より起伏を上げる。								
		②測定位置へ起伏下げ操作で停止させる。								
		③作業床の角度変位量を測定する。								

AT-150S-2	AT-200S-2							
HD5397～	HF5171～							
-***01	-***01							
検 査 基 準 値								
2以下	2以下							
2以下	2以下							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
2.5以下	2.5以下							
2以下	2以下							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
2以下	2以下							
10以下	10以下							
15.7 (1.6)	15.9 (1.62)							
17.7 (1.8)	7(0.71) 17.8 (1.82)							
2° 以下	2° 以下							
3° 以下	3° 以下							

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名		AT-100S-2	AT-120S-2	AT-120SR-2	AT-120SRM-2	
		適用号機		HF0161～	HA5455～	HA5422～	HA5458～	
		スペック番号		-***31	-***31	-***01	-***61	
区分	検査箇所	適用項目 ※条件		単位	検査基準値			
	増圧器	プースター 68.6Mpa (700kgf/cm²) 用		MPa (kgf/cm²)	—	—	—	—
	首振り装置 (BT のみ)	プラットフォーム旋回角度		°	—	—	—	—
		プラットフォーム旋回の作動		コメント	—	—	—	—
		プラットフォームスライドの作動		コメント	—	—	—	—
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧 ※アウトリガバルブまたは、リヤアウト リガ前側のゲージポート		MPa (kgf/cm²)	18.6±0.5 (190±5)	18.6±0.5 (190±5)	18.6±0.5 (190±5)	18.6±0.5 (190±5)
		ポンプ回転数 ※高速負荷時		min ⁻¹	850±25	850±25	850±25	850±25
		作動油		—	—	—	—	—
		油温		℃	40±5	40±5	40±5	40±5
		ポンプ回転数 ※中速負荷時		min ⁻¹	630±20	630±20	630±20	630±20
		ポンプ回転数 ※低速負荷時 「 」は 三菱車		min ⁻¹	※注	※注	※注	※注
	油圧シリンダ	※作業床は無 負荷、レバー操 作は上げ・伸中 立、エンジン停 止後の自然降 下量 自然降下量 ※1	起伏 ※ブーム水平、全縮状 態	mm	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分
			伸縮 ※起伏角度最大、ブ ーム約10cm 伸長状態	mm	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分
			バケット起伏 ※ブーム・バケッ ト水平状態	mm	—	—	—	—
			昇降 ※ブーム水平、全縮状 態	mm	—	—	—	—
			ジャッキ	mm	—	—	—	—
			アウトリガ・ジャッキ ※シリンダス トロークエンド手前停止状態	mm	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分
			平衡装置 ※ブーム水平、全 縮状態・セレクトバルブは開	mm	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分
			ウインチ起伏	mm	—	—	—	—
			屈伸 ※測定可能起伏角 度でブーム全縮状態	mm	—	—	—	—

AT-150S-2	AT-200S-2							
HD5397~	HF5171~							
-***01	-***01							
検 査 基 準 値								
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
18.6±0.5 (190±5)	19.1±0.5 (195±5)							
850±25	850±25							
—	—							
40±5	40±5							
630±20	630±20							
※注	※注							
2mm 以下/10分	2mm 以下/10分							
3mm 以下/10分	3mm 以下/10分							
—	—							
—	—							
—	—							
1mm 以下/10分	1mm 以下/10分							
1mm 以下/10分	1mm 以下/10分							
—	—							
—	—							

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名			AT-100S-2	AT-120S-2	AT-120SR-2	AT-120SRM-2	
		適用号機			HF0161～	HA5455～	HA5422～	HA5458～	
		スペック番号			-***31	-***31	-***01	-***61	
区分	検査箇所	適用項目 ※条件			単位	検査基準値			
安全装置	アースリール線	抵抗値			Ω	—	—	—	—
	作業範囲規制装置	測定方法 ※4	規制装置	作業範囲規制	AMC3	—	—	—	—
				モーメントリミット	AMC3	○	○	○	○
	起伏角度規制装置	100kg仕様	フロントアウトリガ最小張出でブーム全伸における起伏停止角度は		°	—	—	—	—
			フロントアウトリガ最小張出で起伏角停止角度未満におけるブーム伸長停止長さは		mm	—	—	—	—
		200kg仕様	ブーム全伸における起伏停止角		°	—	—	—	—
			起伏角停止角度未満におけるブーム伸長停止角度は		mm	—	—	—	—
	車輻・ブーム干渉防止装置	旋回、伏、伸縮、首振りが自動停止する事。※ブームレスト格納付近は停止しない			—	確認	確認	確認	確認
その他規制装置				—	—	—	—	—	
アウトリガタイヤ				—	—	—	—	—	
総合テスト	※バケット・プラットフォーム側で操作乗員1名	起伏 ※ブーム全縮		上	s	43±9	43±9	43±9	43±9
		旋回※起伏角度最大、ブーム全縮		右	s	60±12	60±12	60±12	60±12
				左	s				
		伸縮 ※起伏角度最大		伸	s	26±5	35±7	35±7	35±7
		バケット首振速度		右	s	—	—	—	—
				左	s				
		プラットフォーム旋回		右	s	60±12	60±12	60±12	60±12
				左	s				
折り曲げ		伸び		s	—	—	—	—	
ウインチ巻上速度 ※1.5m区間、無負荷					min ⁻¹	—	—	—	—
低騒音エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度		負荷時	min ⁻¹	—	—	—	—
				アイドリング		—	—	—	—
		弁すき間（冷態時）		吸気弁	mm	—	—	—	—
				排気弁		—	—	—	—
		圧縮圧力（スターターモーターを5～10秒間回し、最大値を読む）		基準値	MPa	—	—	—	—
				限度	MPa	—	—	—	—
潤滑装置（エンジン油圧）						—	—	—	—

注) 作動速度、安全装置の作業範囲規制装置測定方法は張り幅や、ウエイトの重量によって異なります。
詳細は、サービスマニュアルを参照して下さい。

AT-150S-2	AT-200S-2							
HD5397～	HF5171～							
-***01	-***01							
検 査 基 準 値								
—	—							
—	—							
○	○							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
確認	確認							
—	—							
—	—							
46±9	61±12							
60±12	75±15							
42±8	56±11							
—	—							
—	—							
60±12	66±13							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							
—	—							

株式会社 タダノ

適用範囲			モデル名		AT-157CG-1	AT-195CG-1	AT-240CG-1	AT-255CG-1	
			適用号機		375495～	240403～	385448～	385449～	
			スペック番号		-***01	-***01	-***01	-***01	
区分	検査箇所		適用項目 ※条件		単位	検査基準値			
作業装置	ブーム	スライディングパッド部がた	上下方向		mm	3以下	3以下	3以下	3以下
			左右方向		mm	2以下	2以下	2以下	2以下
			丸形ブームの場合ブーム全縮で1名パケットに乗り込み、左右に首振りを行って丸形ブームの円周上の変位量を測定する。		mm	—	—	—	—
		BTパッド部がた	上下方向		mm	—	—	—	—
			左右方向		mm	—	—	—	—
		ポスト部	セカンド縦横共（片側）		mm	—	—	—	—
			サード縦横共（片側）		mm	—	—	—	—
			フォース縦横共（片側）		mm	—	—	—	—
			トップ縦横共（片側）		mm	—	—	—	—
		スライディングパッド 摩耗量		mm	—	—	—	—	
		底板ラップ部へこみ	セカンド		mm	2.5以下	2.5以下	2.5以下	2.5以下
			サード、トップ		mm	2以下	2以下	2以下	2以下
			ポスト部	セカンド	mm	—	—	—	—
				サード	mm	—	—	—	—
				フォース	mm	—	—	—	—
				トップ	mm	—	—	—	—
		局部へこみ（但し、へこみ長さは50mm以上）		mm	2以下	2以下	2以下	2以下	
	伸縮リヤたるみ	セカンド、トップ（サード）ブームの伸長差（ブーム水平状態でセカンドブームを全縮より約10cm伸長する。）		mm	10以下	10以下	10以下	10以下	
		調整用ナット締付けトルク	縮側	N・m	11.8（1.2）	11.8（1.2）	20.5（2.1）	20.5（2.1）	
			伸側	(kgf・m)	15.7（1.6）	15.7（1.6）	23（2.3）	23（2.3）	
	平衡装置	①起伏上げ操作にて作業床の測定位置を決める。		。	2°以下	2°以下	3°以下	3°以下	
		②作業床内の測定場所に水準器を置き、作業床基準値を測定する。							
		③ストロークエンドまで起伏の上げ下げを10回行う。（BTのみ2回）							
		④測定位置へ起伏上げ操作で停止させる。			2°以下	2°以下	3°以下	3°以下	
		⑤作業床の角度変位量を測定する。							
		①～⑤まで測定後④より							
		①測定位置より起伏を上げる。							
		②測定位置へ起伏下げ操作で停止させる。							
		③作業床の角度変位量を測定する。							

[illegible]

株式会社 タダノ

適用範囲			モデル名		AT-157CG-1	AT-195CG-1	AT-240CG-1	AT-255CG-1	
			適用号機		375495～	240403～	385448～	385449～	
			スペック番号		-***01	-***01	-***01	-***01	
区分	検査箇所	適用項目 ※条件		単位	検査基準値				
	増圧器	プーサー 68.6Mpa (700kgf/cm²) 用		MPa (kgf/cm²)	—	—	—	—	
	首振り装置 (BT のみ)	プラットフォーム旋回角度		°	—	—	—	—	
		プラットフォーム旋回の作動		コメント	—	—	—	—	
		プラットフォームスライドの作動		コメント	—	—	—	—	
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧 ※リヤアウトリガ前側のゲージポート		MPa (kgf/cm²)	17.2±0.5 (175±5)	17.2±0.5 (175±5)	17.7±0.5 (180±5)	17.7±0.5 (180±5)	
		ポンプ回転数 「」は三菱車		min ⁻¹	1000±25 「900±35」	1000±25 「900±35」	1020±30	1020±30	
		作動油		—	—	—	—	—	
		油温		℃	40±5	40±5	40±5	40±5	
		ポンプ回転数		min ⁻¹	—	—	840±30	840±30	
		ポンプ回転数 「」は三菱車		min ⁻¹	525±20	525±20	710±30 「650±30」	710±30 「650±30」	
	油圧シリンダ ※作業床は無負荷、レバー操作は上げ・伸び操作後中立、エンジン停止後の自然降下量 ※1	自然降下量	起伏 ※ブーム水平、全縮状態	mm	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	
			伸縮 ※起伏角度最大、ブーム約10cm 伸長状態	mm	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分	
			バケット起伏 ※ブーム・バケット水平状態	mm	—	—	—	—	
			昇降 ※ブーム水平、全縮状態	mm	—	—	—	—	
			ジャッキ	mm	—	—	—	—	
			アウトリガ・ジャッキ ※シリンダストロークエンド手前停止状態	mm	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	
			平衡装置 ※ブーム水平、全縮状態・セレクトバルブは開	mm	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	
			ウインチ起伏	mm	—	—	—	—	
			屈伸 ※測定可能起伏角度でブーム全縮状態	mm	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名			AT-157CG-1	AT-195CG-1	AT-240CG-1	AT-255CG-1	
		適用号機			375495～	240403～	385448～	385449～	
		スペック番号			-***01	-***01	-***01	-***01	
区分	検査箇所	適用項目 ※条件			単位	検査基準値			
安全装置	アースリール線	抵抗値			Ω	—	—	—	—
	作業範囲規制装置	測定方法 ※4	規制装置	作業範囲規制	AMC3	○	○	○	○
				モーメントリミット	AMC3	—	—	—	—
	起伏角度規制装置	100kg仕様	フロントアウトリガ最小張出でブーム全伸における起伏停止角度は		°	—	—	—	—
			フロントアウトリガ最小張出で起伏角停止角度未満におけるブーム伸長停止長さは		mm	—	—	—	—
		200kg仕様	ブーム全伸における起伏停止角		°	—	—	—	—
			起伏角停止角度未満におけるブーム伸長停止角度は		mm	—	—	—	—
	車輻・ブーム干渉防止装置	旋回、伏、伸縮、首振りが自動停止する事。※ブームレスト格納付近は停止しない			—	確認	確認	確認	確認
その他規制装置				—	—	—	—	—	
アウトリガタイヤ				—	—	—	—	—	
総合テスト	※バケット・プラットフォーム側で操作乗員1名	起伏 ※ブーム全縮	上	s	35±7	35±7	50±10	50±10	
		旋回※起伏角度最大、ブーム全縮	右	s	60±12	60±12	60±12	60±12	
			左	s					
		伸縮 ※起伏角度最大	伸	s	30±6	48±10	52±11	52±11	
		バケット首振速度	右	s	—	—	—	—	
			左	s	—	—	—	—	
		折り曲げブーム ※屈伸角度水平	伸び	s	—	—	—	20±4	
				s	—	—	—	—	
	折り曲げ	伸び	s	30±6	30±6	65±13	65±13		
ウインチ巻上速度 ※1.5m区間、無負荷				s/15m	—	—	—	—	
低騒音エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度	負荷時	min ⁻¹	—	—	—	—	
			アイドリング		—	—	—	—	
		弁すき間（冷態時）	吸気弁	mm	—	—	—	—	
			排気弁		—	—	—	—	
		圧縮圧力（スターターモーターを5～10秒間回し、最大値を読む）	基準値	(kgf/cm ²)	—	—	—	—	
			限度	(kgf/cm ²)	—	—	—	—	
	潤滑装置（エンジン油圧）					—	—	—	—

注) 作動速度、安全装置の作業範囲規制装置測定方法は張り幅や、ウエイトの重量によって異なります。
詳細は、サービスマニュアルを参照して下さい。

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名		BT-110-1	BT-200-1					
		適用号機		HB5240～	HB5183～					
		スペック番号		-***01 -***03	-***01					
区分	検査箇所	適用項目 ※条件		単位	検査基準値					
作業装置	ブーム	スライディングハット部がた	上ブーム	上下方向		0.5～1	0.5～1			
				左右方向		0.2～0.7	0.2～0.7			
			丸形ブームの場合ブーム全縮で1名ハットに乗り込み、左右に首振りを行って丸形ブームの円周上の変位量を測定する。		mm	—	—			
			下ブーム	上下方向		mm	—	0.5～1		
				左右方向		mm	—	0.5～1		
		ポスト部	セカンド縦横共（片側）		0.2～0.5		0.2～0.5			
			サード縦横共（片側）		0.2～0.5		0.2～0.5			
			フォース縦横共（片側）		0.2～0.5		0.2～0.5			
			トップ縦横共（片側）		0.2～0.5		0.2～0.5			
		スライディングハット 摩耗量			mm	—	—			
		底板ラップ部へこみ	セカンド（上ブーム）		mm	2.5以下	2.5以下			
			サード、トップ（下ブーム）		mm	—	2以下			
			ポスト部	セカンド	mm	2.5以下	2.5以下			
				サード	mm	2.5以下	2.5以下			
				フォース	mm	2.5以下	2.5以下			
				トップ	mm	2以下	2以下			
		局部へこみ （但し、へこみ長さは50mm以上）			mm	2以下	2以下			
	伸縮リヤたるみ （下ブーム）	セカンド、トップ（サード）ブームの伸長差 （ブーム水平状態でセカンドブームを全縮より約10cm伸長する。）			mm	10以下	10以下			
		調整用ナット締付けトルク	縮側		N・m	—	6.4（0.65）			
			伸側		(kgf・m)	—	8.3（0.85）			
	平衡装置	①起伏上げ操作にて作業床の測定位置を決める。			。	2°以下	2°以下			
		②作業床内の測定場所に水準器を置き、作業床基準値を測定する。								
		③ストロークまで起伏の上げ下げを10回行う。（BTのみ2回）								
		④測定位置へ起伏上げ操作で停止させる。								
		⑤作業床の角度変位量を測定する。				3°以下	3°以下			
		①～⑤まで測定後④より								
		①測定位置より起伏を上げる。								
		②測定位置へ起伏下げ操作で停止させる。								
		③作業床の角度変位量を測定する。								

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名		BT-110-1	BT-200-1		
		適用号機		HB5240～	HB5183～		
		スペック番号		-***01 -***03	-***01		
区分	検査箇所	適用項目 ※条件		単位	検査基準値		
	増圧器	プーaster 68.6MPa (700kgf/cm ²) 用		MPa (kgf/cm ²)	—	—	
	首振り装置 (BT のみ)	プラットフォーム旋回角度		°	110±3	90±3	
		プラットフォーム旋回の作動		コメント	異常・異音が無い事	異常・異音が無い事	
		プラットフォームスライドの作動		コメント	異常・異音が無い事	異常・異音が無い事	
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧 ※アウトリガ操作バルブ部		MPa (kgf/cm ²)	20.6±0.5 (210±5)	21.6～22.1 (220～225)	
		※ポンプ回転数		min ⁻¹	1265±25 (1150±25)	1265±25 (1150±25)	
		作動油		—	—	—	
		油温		℃	40±5	40±5	
		ポンプ回転数		min ⁻¹	905±25 (825±25)	905±25 (825±25)	
		ポンプ回転数		min ⁻¹	※注	※注	
	油圧シリンダ ※作業床は無 負荷、レバー操 作は上げ・伸 び操作後中立、エンジン 停止後の自然 降下量	自然降下量 ※1	起伏 ※フォーム水平、全縮状態	mm	2mm 以下/10分	2mm 以下/10分	
			伸縮 ※起伏角度最大、フォーム約10cm 伸長状態	mm	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分	
			バケット起伏 ※フォーム・バケット水平状態	mm	—	—	
			昇降 ※フォーム水平、全縮状態	mm	3mm 以下/10分	3mm 以下/10分	
			ジャッキ	mm	—	—	
			アウトリガ・ジャッキ ※シリンダストロークエンド手前停止状態	mm	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	
			平衡装置 ※フォーム水平、全縮状態・セレクトバルブは開	mm	1mm 以下/10分	1mm 以下/10分	
			ウインチ起伏	mm	—	—	
			屈伸 ※測定可能起伏角度でフォーム全縮状態	mm	—	—	

株式会社 タダノ

適用範囲		モデル名			BT-110-1	BT-200-1			
		適用号機			HB5240～	HB5183～			
		スペック番号			-***01 -***03	-***01			
区分	検査箇所	適用項目 ※条件			単位	検査基準値			
安全装置	アースリール線	抵抗値			Ω	—	—		
	作業範囲規制装置	測定方法 ※4	規制装置	作業範囲規制	—	○	○		
				モーメントリミッタ	—	—	—		
	起伏角度規制装置	100kg仕様	フロントアウトリガ 最小張出でブーム全伸における起伏停止角度は		°	—	—		
			フロントアウトリガ 最小張出で起伏角停止角度未満におけるブーム伸長停止長さは		mm	—	—		
		200kg仕様	ブーム全伸における起伏停止角		°	—	—		
			起伏角停止角度未満におけるブーム伸長停止角度は		mm	—	—		
	車輻・ブーム干渉防止装置	旋回、伏、伸縮、首振りが自動停止する事を確認する。			—	—	—		
	その他規制装置				—	※注	※注		
アウトリガタイヤ	傷、磨耗の状態			—	点検	点検			
総合テスト	作動速度 ※2 ※バケット・プラットフォーム側で操作乗員1名	起伏 ※ブーム全縮		上	s	34±7	34±7		
		旋回※起伏角度最大、ブーム全縮		右	s	64±13	64±13		
				左	s				
		伸縮 ※起伏角度最大		伸	s	20±4	18±4		
		下ブーム伸縮		伸	s	—	27±5		
		デッキ旋回		右	s	26±5	24±5		
				左	s				
		ポスト		伸び	s	60±12	54±11		
	ウインチ巻上速度 ※15m 区間、無負荷					s/15m	—	—	
低騒音エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度		負荷時	min ⁻¹	—	—		
				アイドリング		—	—		
		弁すき間（冷態時）		吸気弁	mm	—	—		
				排気弁		—	—		
		圧縮圧力（スターターモーターを5～10秒間回し、最大値を読む）		基準値	MPa	—	—		
				限度	MPa	—	—		
潤滑装置（エンジン油圧）					—	—	—		

注) 作動速度、安全装置の作業範囲規制装置測定方法は張り幅や、ウエイトの重量によって異なります。
詳細は、サービスマニュアルを参照して下さい。

※1.油圧シリンダの自然降下量

1.起伏シリンダ

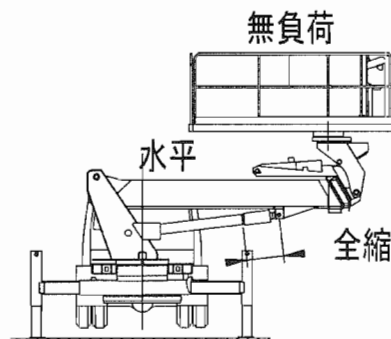
「測定要領」

- 1) 車体を水平堅土上に設置する。
- 2) ブーム全縮状態で、起操作にて水平にする。
- 3) エンジンを停止する。
- 4) シリンダ（ロッド）にマーキングする。
- 5) 起伏操作バルブを操作し、残圧を抜き
1分後に0点をセットする
- 6) 10分経過後、降下量を測定する

「判定基準」

ロッドの縮小量は2mm以内／10分

※油温の高い時は行わないこと



2.伸縮シリンダ

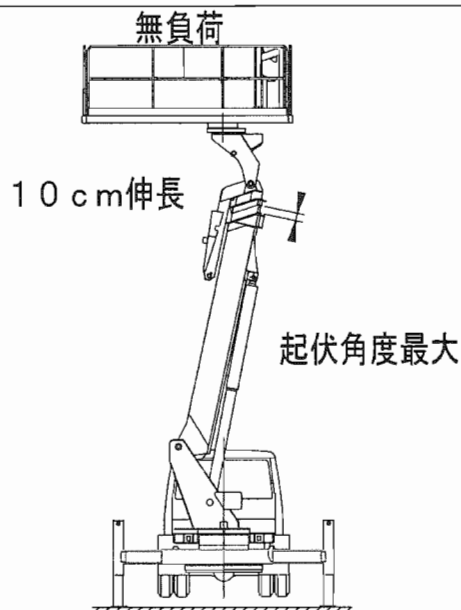
「測定要領」

- 1) 車体を水平堅土上に設置する。
- 2) ブーム起伏角度最大で、伸操作にて
10cm伸長する。
- 3) エンジンを停止する。
- 4) セカンドブームにマーキングする。
- 5) 伸縮操作バルブを操作し、残圧を抜き
1分後に0点をセットする
- 6) 10分経過後、降下量を測定する

「判定基準」

セカンドブームの縮小量は3mm以内／10分

※油温の高い時は行わないこと



3.ジャッキシリンダ

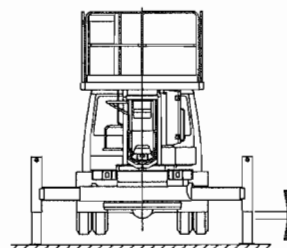
「測定要領」

- 1) 車体を水平堅土上に設置する。
- 2) ブーム格納状態で、ジャッキ張り出し操作にて
タイヤを浮かす。
- 3) エンジンを停止する。
- 4) ジャッキインナーにマーキングする。
- 5) アウトリガ操作バルブを操作し、残圧を抜き
1分後に0点をセットする
- 6) 10分経過後、降下量を測定する

「判定基準」

ジャッキインナーの縮小量は1mm以内／10分

※油温の高い時は行わないこと



※2.速度測定方法

「測定要領」

- 1) 車体を水平堅土上に設置する。
- 2) 作業車の作動範囲に障害物が無いことを確認する。
- 4) 各操作は旋回台で行う。
- 3) 油温は $40 \pm 5^{\circ}\text{C}$ で行う。

①起伏速度

- 1) ブームを全縮状態で、伏せ操作により「伏」エンドまで下げる。
- 2) 起操作により「起」エンド停止までの時間を測定する。

②伸縮速度

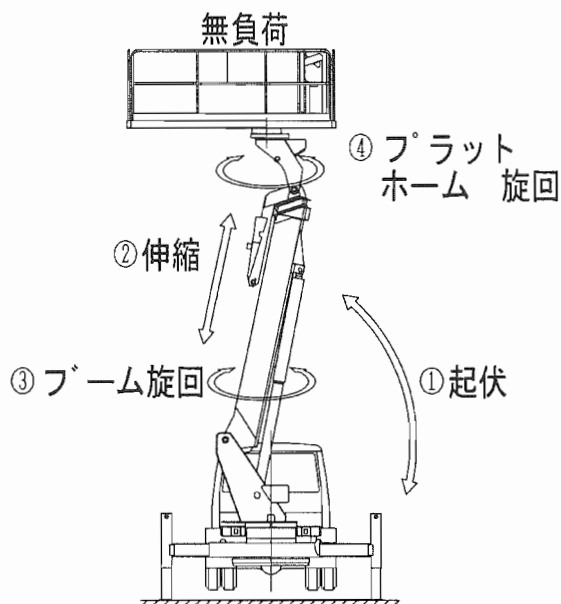
- 1) ブームを全縮状態で、起操作により「起」エンドまで上げる。
- 2) 伸操作により「伸」エンド停止までの時間を測定する。

③ブーム旋回速度

- 1) ブームを全縮、起エンド状態で後方に向ける。
- 2) ブーム旋回操作により1回転するまでの時間を測定する。
- 3) ブーム右旋回、左旋回共に行う。

④プラットフォーム旋回速度

- 1) ブームを全縮、起エンド状態で後方に向ける。
- 2) デッキ旋回操作により1回転するまでの時間を測定する。
- 3) デッキ右旋回、左旋回共に行う。



※3.履帯、駆動チェーンたわみ測定

①履帯

「測定要領」

- 1) プラットホーム床面のフタを開け、4ヶ所の吊上げ装置にて車体を約5cm吊上げます。
- 2) 第3転輪と履帯内面の隙間を測定します。

「判定基準」

第3転輪と履帯の内面の隙間が10～20mmであること。

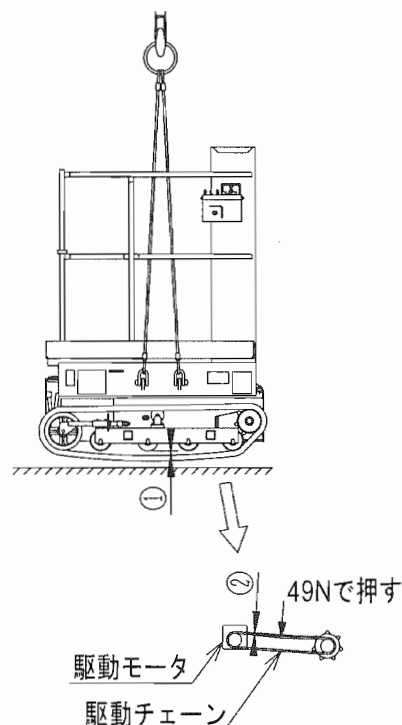
②駆動チェーン

「測定要領」

- 1) プラットホームを上げて降下防止ストッパにて固定する。
- 2) カバーをはずし、チェーン上側中央を49N (5kg f) で押す。
- 3) チェーン上側中央でたわみを測定する。

「判定基準」

チェーンのたわみが8～10mmであること。



※4.作業半径測定方法

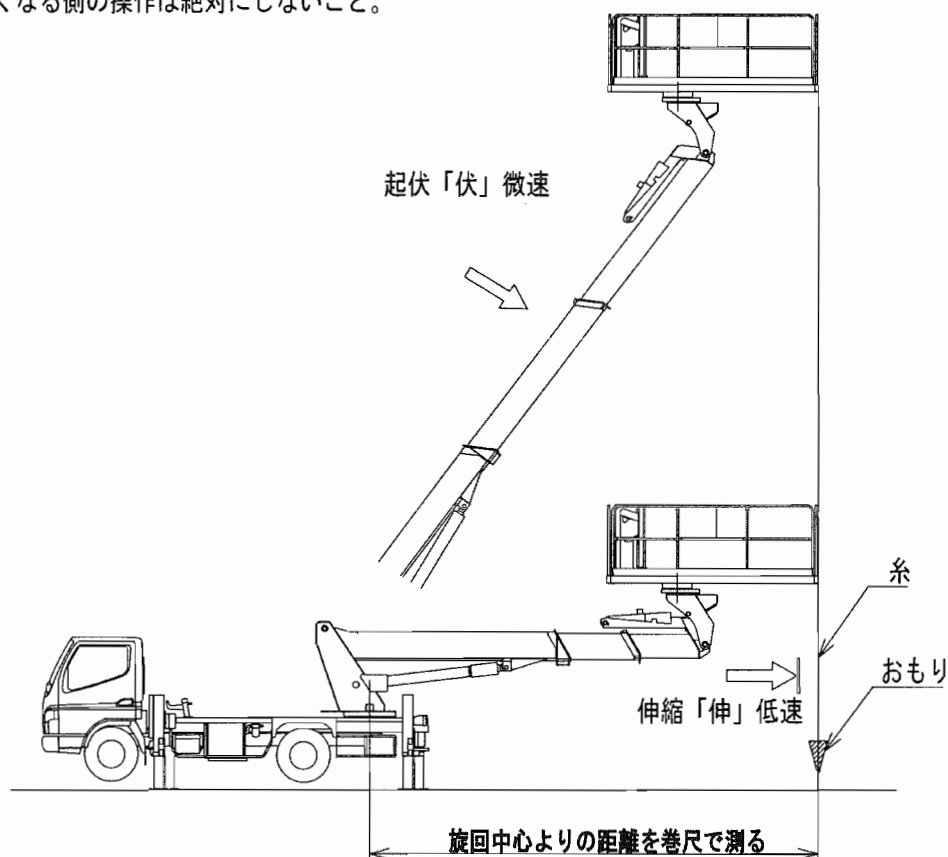
「測定機器」

- 計 尺 錘 水
度 卷 重
角 重 水

「測定例」

※測定値や測定方法は、機種によって異なります。
また、同じ機種でも張り幅やウエイトの重量によっても異なります。
詳細はサービスマニュアルを参照してください。

- 1) 高所作業車を水平堅土上に水平に設置する。
(タイヤが浮いていることを確認する)
- 2) ブーム操作は、下部操作の低速側にて行うこと。
- 3) ブームを水平状態にし、伸長操作にてAMC
100%停止させ、作業半径を測る。
やむを得ずブームを立てて行なう場合は、
上部操作で微速「伏」操作にて行なうこと。
※バケット（プラットホーム）の積載荷重
は機種、または仕様によっても異なっ
ているので各機種のデータを参照すること。
- 5) 規定の作業半径に達してもブームの作動が
100%停止しない場合は、作業半径が大き
くなる側の操作は絶対にしないこと。

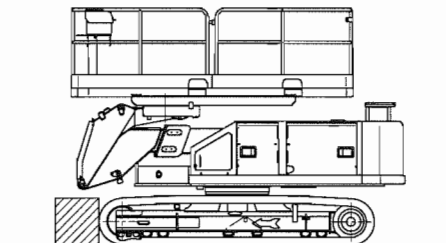


適用範囲		モデル名			NU1070R-2	NUL090-3	NUL120-2	NUZ090D			
		適用号機			STD	9NU3050～	2NU2050～	9NZ007～			
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法		単位	検査基準値						
エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度	ローアイドル	min ⁻¹	1500±50	1300±50	1300±50	1250±25(※1)			
			ハイアイドル	min ⁻¹	2250±50	2500±50	2500±50	2500			
		弁すき間	吸気弁	mm	0.145～0.185	0.25	0.25	0.25			
			排気弁	mm	0.145～0.185	0.25	0.25	0.25			
		圧縮圧力		MPa	2.8～3.2	2.9	2.9	2.9			
			(kgf/cm ²)	(29～33)	(30)	(30)	(30)				
	回転速度	min ⁻¹	200～300	290	290	290					
	冷却装置	ファン駆動ベルトの張り			mm	7～9	8～10	8～10	8～10		
※ベルト押し付け力			N	98	98	98	98				
			(kgf)	(10)	(10)	(10)	(10)				
走行装置	履帯 クローラベルト	コマベルト張り(たわみ量)(※2)			mm	15～20	25～35	25～35	—		
		鉄シュー	張り(たわみ量)(※2)		mm	15～20	25～35	25～35	25～35		
			リンクピッチの伸び		mm	—	10以下	10以下	140以下		
	走行ブレーキ	制動距離			m	—	—	—	0.3以内		
駐車ブレーキ	最低停止保持勾配			°	11.5	11.5	11.5	11.5			
作業装置	ブーム	スライディングパッド部がた	上下	mm	1 以下	1 以下	1 以下	1 以下			
			左右	mm	1 以下	1 以下	1 以下	1 以下			
		スライディングパッド使用限界	上	mm	8 以下	10 以下	11 以下	15 以下			
			下	mm	14 以下	9 以下	10 以下	15 以下			
			左右	mm	14 以下	12 以下	16 以下	16 以下			
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧	リフト側	MPa (kg/cm ²)	17.2 ^{+0.5} ₀ [175 ⁺⁵ ₀]	20.6 ^{+0.5} ₀ [210 ⁺⁵ ₀]	20.6 ^{+0.5} ₀ [210 ⁺⁵ ₀]	24.5 ^{+0.5} ₀ [250 ⁺⁵ ₀]			
			走行側	MPa (kg/cm ²)	17.2 ^{+0.5} ₀ [175 ⁺⁵ ₀]	20.6 ^{+0.5} ₀ [210 ⁺⁵ ₀]	20.6 ^{+0.5} ₀ [210 ⁺⁵ ₀]	24.5 ^{+0.5} ₀ [210 ⁺⁵ ₀]			
		ポンプ回転数	低速	min-1	1250±50	1300±50	1300±50	1200±25			
			高速	min-1	2250±50	2500±50	2500±50	2400 ⁺⁵⁰ ₀			
		※作動油		—	—	VG32	VG32	VG32	VG32		
				°C	40±10	40±10	40±10	40±10			
	油圧シリンダ	自然伸縮量	第1ブーム(※3)	mm/10min	2 以下	2 以下	2 以下	2 以下			
			第2ブーム(※3)	mm/10min	2 以下	2 以下	2 以下	2 以下			
			伸縮(□4)	mm/10min	2 以下	2 以下	2 以下	2 以下			
	安全装置	車体傾斜角 警報装置	作動角度	前後	°	3±0.5	3±0.5	3±0.5	3±0.5		
左右				°	3±0.5	3±0.5	3±0.5	3±0.5			
作業範囲 規制装置		リミットスイッチ 作動高さ	高速走行規制	k/m	1.2	1.5 (※5)	1.4 (※5)	0.9			
			走行規制	m	2 (※5)	2 (※5)	2 (※5)	5 (※6)			
			上昇規制検知	m	—	—	—	—			
過積載 規制装置		圧力スイッチ 作動重量	上昇可	kg	—	—	—	500			
			上昇不可	kg	—	—	—	600			
総合テスト		作動速度	第1ブーム (リフト) (※7)	上	sec	12±6	12±6	18±6 (※7)	24±3		
				下	sec	25±6	12±6	18±6 (※7)	24±3		
			第2ブーム (第3ブーム) (※8)	上	sec	18±6	26±6	28±6 (※8)	24±3		
	下			sec	28±6	26±6	28±6 (※8)	24±3			
	伸縮ブーム		伸	sec	14±6	15±6	17±6	17±3			
			縮	sec	25±6	15±6	23±6	17±3			
	バスケット旋回 (プラットフォーム) (※9)		右	sec	8±6	8±6	11±6	80±10(※9)			
			左	sec	5±6	8±6	11±6	80±10(※9)			
	旋回		右	sec/360°	65±8	75±10	80±10	80±10			
			左	sec/360°	65±8	75±10	80±10	80±10			
走行	高(2速)	km / h	2.2±0.1	2.6±0.1(※5)	2.4±0.1(※5)	1.6±0.1					
	低(1速)	km / h	1.1±0.1	1.5±0.1	1.4±0.1	0.9±0.1					

※1、エンジン回転調整

NUZ090D のエンジン回転調整は P1・P2 リーフ時の回転数を調整します。

- 1、クローラの前に輪止めを設置します。
- 2、下部操作リモコンで走行動作を行いクローラが止まる事を確認します。
- 3、下部リモコンで走行操作中のエンジン回転数を調整します。



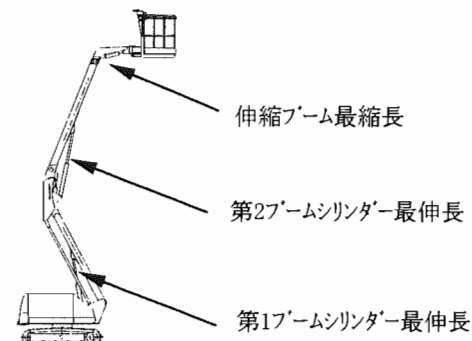
※2、クローラ張り調整

- 1、クローラを地面から浮かせて下さい。
- 2、クローラの中央部に最も近いトラックロー下面とクローラの転動面との間隔（たわみ量）を測定します。
- 3、たわみ量が規定値となる様にジャストシリンダーのグリス量を調整します。



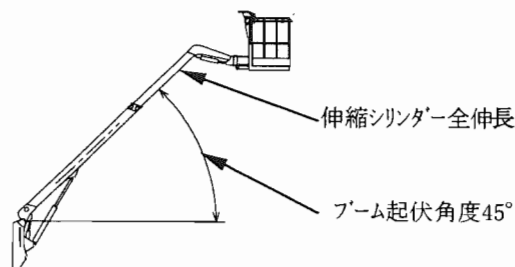
※3、ブームシリンダー自然降下量測定

- 1、伸縮ブームを全縮長にします。
- 2、各ブームシリンダーを最伸長にします。
- 3、そのままの姿勢で10分間放置しシリンダーの縮み量を測定します。



※4、伸縮シリンダー自然降下量測定

- 1、伸縮シリンダーを全伸長にします。
- 2、ブーム起伏角度を45°にします。
- 3、そのままの姿勢で10分間放置しシリンダーの縮み量を測定します。



※5、走行規制高さ

※オプション装備の場合です。

- 1、バスケット、プラットフォームが地上から規定の高さ以上上昇した場合に走行が停止します。
- 2、走行が停止した際スケールにてバスケット、プラットフォームの作業床から地面までの高さを測定します。

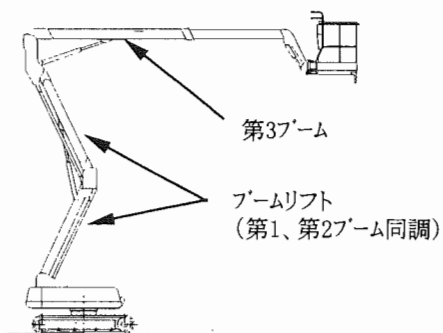
※6、走行規制高さ

※NUZ090D の場合は切替によりプラットフォームの作業床が2m以上で走行停止させる事が可能です。

※7、8 ブーム作動速度

※NUL120-2 の場合ブームの名称が異なります。

第17ブーム → ブームリフト（第1、第2ブームの同調起伏）
第27ブーム → 第37ブーム



※9、プラットフォーム旋回速度

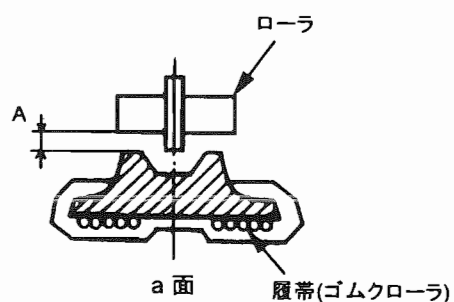
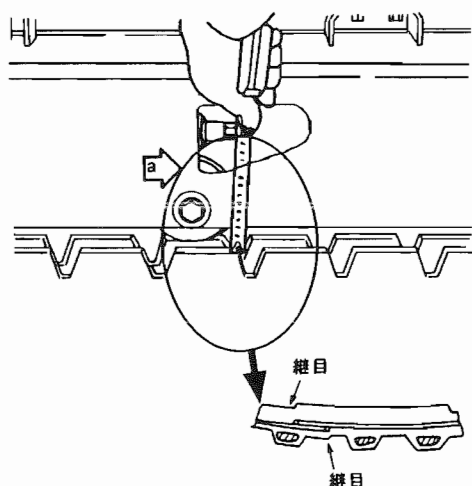
※NUZ090D の場合は作業床が大型のためプラットフォームと呼称します。

日立建機 株式会社

適用範囲		モデル名		HX64B-2	HX99B-2	HX120B-2	HX140B-2	HX220B-2
		適用号機		001001～	001001～	001001～	001001～	001001～
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法	単位	検査基準値				
エンジン	エンジン	ローアイドル	mm-1	1150±50	1300±50	1250±50	1250±50	950±50
		ハイアイドル	mm-1	2450±50	2400 ⁺⁰ ₋₅₀	2280 ⁺⁰ ₋₅₀	2280 ⁺⁰ ₋₅₀	7 ⁺ ームリリーフ :1500±100 走行リリーフ :1800±100
		吸気弁	mm	0.145～0.185	0.4	0.4	0.4	0.4
		排気弁	mm	0.145～0.185	0.4	0.4	0.4	0.4
		圧縮圧力	MPa	3.4 (35kg/c m ²)	3.4 (35kg/c m ²)	3.4 (35kg/c m ²)	3.4 (35kg/c m ²)	3.0 (31kg/c m ²)
		回転速度	min-1	300～400	300～400	300～400	300～400	200
		ファンベルト張り	mm	7	7	7	7	8～12
		ベルト押し付け力	N	98	98	98	98	98
走行装置	走行装置	コムベルト張り	mm	10～15 *6	10～15 *6	10～15 *6	10～15 *6	—
		鉄シュ張り	mm	120～140	140～160	140～160	140～160	135～145*7
		制動距離	m	0.5以内	0.5以内	0.5以内	0.5以内	0.5以内
		最低停止保持勾配	°	11.5以上	11.5以上	11.5以上	11.5以上	11.5以上
作業装置	ブーム	スライディング	上下	mm	—	3	3	3
		バットカタ	左右	mm	—	1	1	1
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧		MPa	17.2	20.6	24.5	24.5
				(Kg/c m ²)	(175)	(210)	(250)	(175)
		作動油		—	#46	#46	#46	#46
		油温		°C	50±5	50±5	50±5	50±5
	油圧シリンダー	ポンプ回転数		min-1	2300	2200	2200	1800
		自然伸縮量	起伏	mm/10'	—	2以下	3以下	3以下
			伸縮	mm/10'	—	2以下	3以下	3以下
			平衡装置	mm/10'	—	1以下	1以下	1以下
			ブーム	mm/10'	3以下	—	—	—
			アーム	mm/10'	3以下	—	—	—
安全装置	車体傾斜角警報	作動角度	前後	°	3	3	3	3
総合テスト	作動速度	起伏	上	s	—	40±3 *1	50±3 *1	55±3 *1
			下	s	—	44±3 *1	50±3 *1	55±3 *1
		伸縮	伸	s	—	20±3 *2	35±3 *2	45±3 *2
			縮	s	—	20±3 *2	35±3 *2	45±3 *2
		旋回 (1周)	右	s	55±3	55±3 *3	80±5 *3	120±5 *3
			左	s	55±3	55±3 *3	80±5 *3	120±5 *3
		作業床 首振速度	右	s	9±1.5 *5	15±3 *4	20±5 *4	20±5 *4
			左	s	9±1.5 *5	15±3 *4	20±5 *4	20±5 *4
		ブーム	上	s	18±1.5	—	—	—
			下	s	13.5±1.5	—	—	—
		アーム	上	s	15±1.5	—	—	30±3 (先端アーム) 20±5 (先端アーム)
			下	s	13.5±1.5	—	—	30±3 (先端アーム) 20±5 (先端アーム)
		走行高速	右	s/10m	22.5±3	20±3	24±3	24±3
			左	s/10m	22.5±3	20±3	24±3	24±3
		走行低速	右	s/10m	45±5	33±3	40±3	45±5
			左	s/10m	45±5	33±3	40±3	45±5

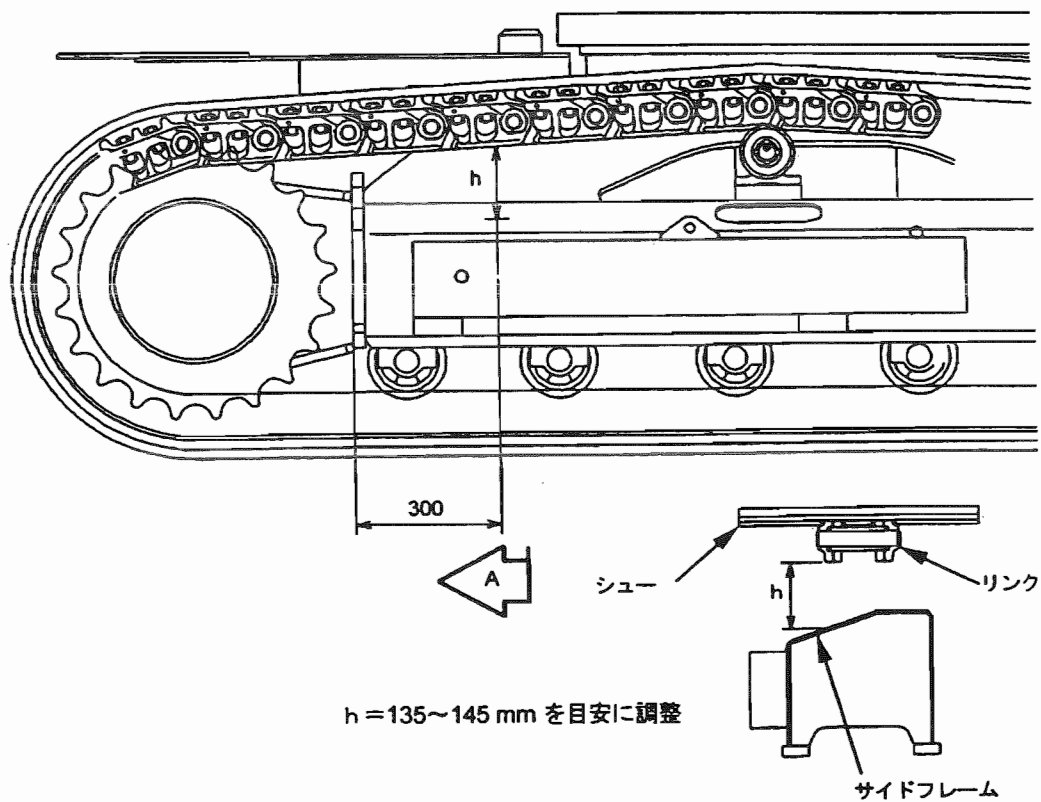
測定方法・条件

- ※1：起伏速度はブーム最縮時の値
- ※2：伸縮速度はブームが地面に対して水平時の値
- ※3：旋回速度はブーム最縮、最起時の値
- ※4：作業床首振りは 180° での値
- ※5：作業床首振りは 135° での値
- ※6：測定箇所



※7：測定方法

1. 車体を水平堅土上に置き、輸送姿勢にしてエンジンを停止します。
2. 下図位置で、サイドフレームからリンク下端までの高さを測定してください。



断面
SECTION A

株式会社 前田製作所

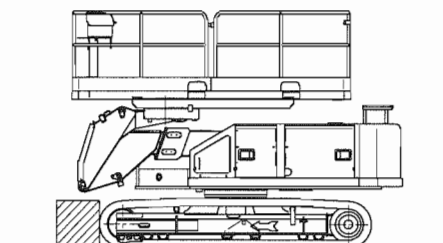
(1/1)

適用範囲		モデル名			HF070R-2	HF090-3	HF120-2	HFZ090D		
		適用号機			STD	9HF3050～	12HF2050～	9HF007～		
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法		単位	検査基準値					
エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度	ローアイドル	min ⁻¹	1500±50	1300±50	1300±50	1250±25(※1)		
			ハイアイドル	min ⁻¹	2250±50	2500±50	2500±50	2500		
		弁すき間	吸気弁	mm	0.145～0.185	0.25	0.25	0.25		
			排気弁	mm	0.145～0.185	0.25	0.25	0.25		
		圧縮圧力		MPa (kgf/cm ²)	2.8～3.2 (29～33)	2.9 (30)	2.9 (30)	2.9 (30)		
		回転速度		min ⁻¹	200～300	290	290	290		
	冷却装置	ファン駆動ベルトの張り		mm	7～9	8～10	8～10	8～10		
		※ベルト押し付け力		N (kgf)	98 (10)	98 (10)	98 (10)	98 (10)		
走行装置	履帯 クローラベルト	ゴムベルト張り(たわみ量)(※2)		mm	15～20	25～35	25～35	—		
		鉄シュー	張り(たわみ量)(※2)	mm	15～20	25～35	25～35	25～35		
			リンクピッチの伸び	mm	—	10以下	10以下	140以下		
	走行ブレーキ	制動距離		m	—	—	—	0.3以内		
	駐車ブレーキ	最低停止保持勾配		°	11.5	11.5	11.5	11.5		
作業装置	ブーム	スライディングパッド部がた	上下	mm	1 以下	1 以下	1 以下	1 以下		
			左右	mm	1 以下	1 以下	1 以下	1 以下		
		スライディングパッド使用限界	上	mm	8 以下	10 以下	11 以下	15 以下		
			下	mm	14 以下	9 以下	10 以下	15 以下		
			左右	mm	14 以下	12 以下	16 以下	16 以下		
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧	リフト側	MPa	17.2 ^{+0.5} ₀	20.6 ^{+0.5} ₀	20.6 ^{+0.5} ₀	24.5 ^{+0.5} ₀		
				(kg/cm ²)	[175 ⁺⁵ ₀]	[210 ⁺⁵ ₀]	[210 ⁺⁵ ₀]	[250 ⁺⁵ ₀]		
			走行側	MPa	17.2 ^{+0.5} ₀	20.6 ^{+0.5} ₀	20.6 ^{+0.5} ₀	24.5 ^{+0.5} ₀		
				(kg/cm ²)	[175 ⁺⁵ ₀]	[210 ⁺⁵ ₀]	[210 ⁺⁵ ₀]	[210 ⁺⁵ ₀]		
		ポンプ回転数	低速	min ⁻¹	1250±50	1300±50	1300±50	1200±25		
			高速	min ⁻¹	2250±50	2500±50	2500±50	2400 ⁺⁵⁰ ₀		
		※作動油		—	VG32	VG32	VG32	VG32		
		油温		°C	40±10	40±10	40±10	40±10		
	油圧シリンダ	自然伸縮量	第1ブーム(※3)	mm/10min	2 以下	2 以下	2 以下	2 以下		
			第2ブーム(※3)	mm/10min	2 以下	2 以下	2 以下	2 以下		
			伸縮(□4)	mm/10min	2 以下	2 以下	2 以下	2 以下		
安全装置	車体傾斜角 警報装置	作動角度	前後	°	3±0.5	3±0.5	3±0.5	3±0.5		
			左右	°	3±0.5	3±0.5	3±0.5	3±0.5		
	作業範囲 規制装置	リミットスイッチ 作動高さ	高速走行規制	k/m	1.2	1.5(※5)	1.4(※5)	0.9		
			走行規制	m	2(※5)	2(※5)	2(※5)	5(※6)		
			上昇規制検知	m	—	—	—	—		
	過積載 規制装置	圧力スイッチ 作動重量	上昇可	kg	—	—	—	500		
			上昇不可	kg	—	—	—	600		
	総合テスト	作動速度	第1ブーム (リフト) (※7)	上	sec	12±6	12±6	18±6(※7)	24±3	
				下	sec	25±6	12±6	18±6(※7)	24±3	
			第2ブーム (第3ブーム) (※8)	上	sec	18±6	26±6	28±6(※8)	24±3	
				下	sec	28±6	26±6	28±6(※8)	24±3	
			伸縮ブーム	伸	sec	14±6	15±6	17±6	17±3	
				縮	sec	25±6	15±6	23±6	17±3	
			バスケット旋回 (プラットフォーム) (※9)	右	sec	8±6	8±6	11±6	80±10(※9)	
				左	sec	5±6	8±6	11±6	80±10(※9)	
旋回			右	sec/360°	65±8	75±10	80±10	80±10		
			左	sec/360°	65±8	75±10	80±10	80±10		
走行			高(2速)	km / h	2.2±0.1	2.6±0.1(※5)	2.4±0.1(※5)	1.6±0.1		
			低(1速)	km / h	1.1±0.1	1.5±0.1	1.4±0.1	0.9±0.1		

※1、エンジン回転調整

HFZ090D のエンジン回転調整は P1・P2 リーフ時の回転数を調整します。

- 1、クローラの前に輪止めを設置します。
- 2、下部操作リモコンで走行動作を行いクローラが止まる事を確認します。
- 3、下部リモコンで走行操作中のエンジン回転数を調整します。



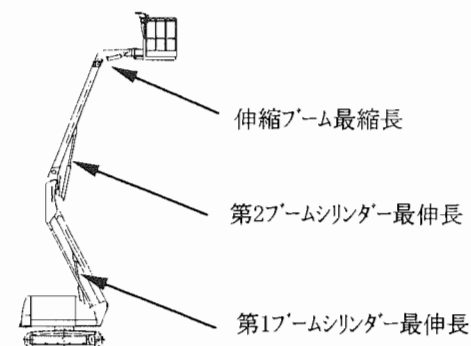
※2、クローラ張り調整

- 1、クローラを地面から浮かせて下さい。
- 2、クローラの中央部に最も近いトラックロー下面とクローラの転動面との間隔（たわみ量）を測定します。
- 3、たわみ量が規定値となる様にアジャストシリンダーのグリス量を調整します。



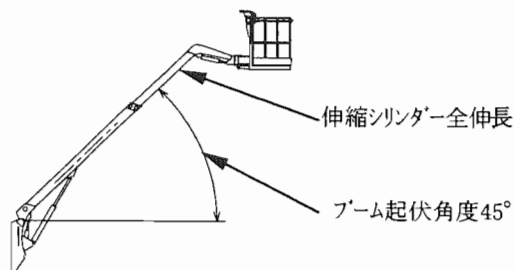
※3、ブームシリンダー-自然降下量測定

- 1、伸縮ブームを全縮長にします。
- 2、各ブームシリンダーを最伸長にします。
- 3、そのままの姿勢で10分間放置しシリンダーの縮み量を測定します。



※4、伸縮シリンダー-自然降下量測定

- 1、伸縮シリンダーを全伸長にします。
- 2、ブーム起伏角度を45°にします。
- 3、そのままの姿勢で10分間放置しシリンダーの縮み量を測定します。



※5、走行規制高さ

※オプション装備の場合です。

- 1、バスケット、プラットフォームが地上から規定の高さ以上上昇した場合に走行が停止します。
- 2、走行が停止した際スケールにてバスケット、プラットフォームの作業床から地面までの高さを測定します。

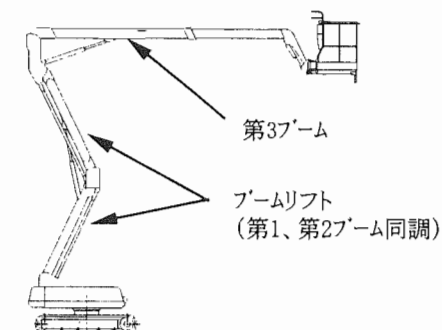
※6、走行規制高さ

※HFZ090D の場合は切替によりプラットフォームの作業床が2m以上で走行停止させる事が可能です。

※7、8 ブーム作動速度

※HF120-2の場合ブームの名称が異なります。

- 第17ブーム → ブームリフト（第1、第27ブームの同調起伏）
- 第27ブーム → 第37ブーム



※9、プラットフォーム旋回速度

※HFZ090D の場合は作業床が大型のためプラットフォームと呼称します。

高所作業車検査・整備基準値表

平成12年 5 月 初版発行

平成21年 7 月 改訂第2版4刷発行

発行 社団法人 建設荷役車両安全技術協会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3丁目7番1号
(ニュー九段ビル9階)

電 話 03-3221-3661

FAX 03-3221-3665

URL <http://www.sacl.or.jp>



SS-HL-01-A

